

中等
和文英譯講話

今井信之著



明治
43. 9. 30
丙寅

東西社發行

中
英 文 譯 法 精 義

著 者 謝 英 今

東 亞 書 局 發 行

緒 言

- 一、我國多數英學生が和文英譯の技術に於ては甚だ幼稚であると云ふ欠陥を幾分ても補はんが爲めに著者は疊に「和文英譯臨床講義」なる書を本社から公けにしたが本書は該臨床講義の増補版である。
- 二、「臨床講義」以來多年の間英作文教授に於いて經驗を得た著者は本書中に於て實地且つ通俗的に和文英譯の理法を解き又一々其作例を示したつもりである。
- 三、問題の材料としては諸官立學校の入學試験問題文部省檢定試験問題及第二篇に於て新聞雜誌の記事等を選んだ。
- 四、著者は讀者が本書を研究的に讀まれん事を希望するのである、即ち問題の部によりて讀者自身で一文を作り、而かも十分それを琢磨した上で更に本文の作例講義と對照されたい、尙本書研究上の質疑は著者は喜んで受けるのである。
- 五、作例文中の或ものは英人某氏の注意深き添削を経た、爰に其好意を謝して置く。

著 者 謝

和文英譯講話

讀者は先づ註の助けにより一々問題を英譯し後其譯義と作例を照合されよ。

第一章の部

1. 太陽地平線上に顯はるゝや否や彼れは寐床を離れて仕事を始む。

【註】 地平線 = horizon. や否や = as soon as. 寐床 = bed. 離れ = leave.

2. 余の行くも行かざるも汝の關する所に非ず。

【註】 余の行くも行かざるも = whether I go or not. 關するところ = concern.

3. 長命の人は十中の八九早起き少食です。

【註】 長命の = long-lived. 少食(家) = small eater.

4. 當港在留の外國人は春季運動會を豫期の如く昨日午後遊園地に於て大成功を以て舉行したり。

【註】 當港在留の = staying at this port. 春季運動會 = the spring athletic meeting. 豫期の如く = as previously arranged. 遊園地 = the Recreation Ground.

5. 著者が病氣でなかつたら其著述は今頃は印刷に掛つて居たてせう。

【註】 なかつたら = if..... had not been. 印刷に掛る = to be printing.

6. 丁度汽車に間に合ひました。今立つと云ふ所で未だ立ちませんでした。

【註】 間に合ふ=in time. 今立つと云ふ所=about to start.

7. 向ふて其事を私に秘して置くやうにと汝に頼んだのか。

【註】 秘して置く=keep it a secret from me. 頼む=ask.

8. 四季各其特質を有す、今設し春を花の時とせば夏は之れ何とか云ふ可き。

【註】 特質=special feature. 今設し=supposing that.

9. よしや今から二三年戦争が続いても我國は軍資の不足を感ずる事はありますまい。

【註】 よしや=even if. 軍資=war funds. 不足を感ずる=to be in want.

10. 何とマアお芽出度い事ではありませんか。

【註】 お芽出度い事=a lucky event.

11. 私は斯く丈夫でも何時病氣になるか分りませぬ。

【註】 斯く丈夫=so healthy.

12. 私は奴隷になるより寧ろ死んだ方がよい。

【註】 奴隷=a slave.

13. 此のお方はあのハンケチを一割五分まければ三ダース買ふと申されました。

【註】 ハンケチ=handkerchief. 一割五分=fifteen per cent. ダース=dozen.

14. 昨日倫敦在留の友人よりの手紙に依りますると同地目下の商況は頗る活潑ださうで御座います。

【註】 依りますると=according to. 商況=the market. 頗る活潑=very active.

15. 私の時計は掏摸が捕縛されてからズツと後で見付かりました。

【註】 掏摸=pickpocket. 捕縛=arrest.

16. 人は壯健の時而已眞に愉快である。

【註】 時而已=only when. 愉快=happy.

17. 軍人は戦ひ學生は學ぶ其所行異なりと雖も其本分を盡すに於て何ぞ分らん。

【註】 其所行=doings. 異なりと雖も=differ in. 本分を盡す=in discharging one's duties.

18. 先日見ず知らずの人が金を借りに來たが随分蟲のいゝ男だ。

【註】 見ず知らずの人=stranger. 蟲のいゝ男=an audacious man.

19. 是迄讀んだ英書の中で私に少なからぬ興味と利益を與へたものは「マーデン」氏の書いた「ブツシング、ツ、ザ、フロント」と云ふ書物でした。

【註】 是迄=so far. 少なからぬ=not a little. 興味と利益=interest and profit. と云ふ=entitled.

20. 我は先日父が何れの學校へ入學を志望するかと問ひました時に神戸高等商業學校の入學試験を受けて見たいと答へました。

【註】 入學を志望する=desire to enter. 入學試験=the entrance examination. 受けて見たい=have a mind to take.

21. 君は中學校を卒へて後更に高等の學校へ入學を希望せらるゝ由承りましたが本當ですか。

【註】 卒へて後=after you finish. 本當=true.

22. 私は雪の降る前より降つて居るときが暖いと思ひ

ます、時に此様に深き地上の雪の融けるのにはどれ程か
ゝりますか。

【註】 時に=by the way. 此様に深き地上の雪=the snow lying so deep
on the ground. 融ける=melt away.

23. 或る有力なる實業家が外國漫遊者の爲めに市内に
一大旅館建設の計畫中である。

【註】 有力なる實業家=influential business men, 外國漫遊者=foreign
tourists. 建設の計畫中=are planning to establish.

24. 學問の事に限らず何事にも専心ならざれば成功
する事覺束なきものなり。

【註】 に限らず=not only. 専心=concentrate one's whole energy. 覺束
ない=hardly possible.

25. 路が狭くて馬車も人力車も通れません。

【註】 狭い=narrow. 通る=pass.

26. 難破船の船員數名は其時通り掛つた汽船に救助さ
れましたが其他は皆溺死しました。

【註】 難破船=wrecked ship. 船員=the crew. 通り掛つた汽船=a
steamer that happened to pass by. 救助された=was saved.

27. あの紳士は二年と同じ場所に住んだ事が御座いま
せぬ。

【註】 二年と=even for two years in succession. 御座いませぬ=has
never.....

28. 年三十五、東京高等工業學校卒業、多年機械工業
に従事す、機械工場の技師長に雇はれたし。

【註】 卒業(者)=a graduate. 東京高等工業學校=the Tokyo Higher
Technical School. 機械工業=mechanical work. 技師長=chief
engineer.

29. 海軍兵學校の入學志願者は昨年來非常に其數を増
した事であるがこれは云ふまでもなく日露戦争の影響で
ある。

【註】 海軍兵學校=the Naval Academy. 入學志願者=those who desire
to enter. 云ふまでもなく=of course. 影響=effect.

30. 私は小説家となるよりも寧ろ詩人とならん。

【註】 小説家=novelist. 寧ろ=rather. 詩人=poet.

31. 本校卒業後實業に就くもの最も多く教師となるも
の之に次ぐ。

【註】 實業に就く=go to business. 之に次ぐ=come next in number.

32. 外國語を知らずして外交官となるは資本なくして
商業を營むが如し。

【註】 を知らずして=without the knowledge of. 外交官=diplomatist.
資本=funds. 營む=carry on.

33. 觀光の爲め我國に渡來する外客の數は年一年と増
加するのにこれを收容す可き旅館の設備未だ不完全なる
は甚だ遺憾の事である。

【註】 觀光=sight-seeing. 渡來する=visit. 年一年=year by year. 設
備=accommodation. 不完全=in imperfect condition.

34. (A) 君は今度始めて東京に來たのですか。

(B) 然うでもないですが十年目に上京して様子が變つ
たのには驚きました就中電車の如きは最も著しいのでせ
うネ。

(C) 然うです實に便利になりました。

【註】 始めて=for the first time. 然うでもない=not exactly so. 様子が
變つたのには=to see the city very much changed. 就中=above all.
便利=convenient.

35. どんな競争が出てても辟易しませぬ。

【註】 競争=competition. 辟易する=to shrink from it.

36. 新銀行の總裁は第百銀行頭取池田謙三氏なり。

【註】 總裁=president. 頭取=總裁と同じ意味.

37. 窓から見た景色は實に美しくていくら見ても見飽きがしませぬ。

【註】 から見た景色=view. 見飽きる=tired of looking.

38. 生徒の一部はまだ校長に對する舊怨を忘れざるが如し。

【註】 一部=a section. 校長=principal. 對する=against. 舊怨=old scores.

39. 氏の如き名望ある人にして尙且つ斯の如き無責任なる言辭を弄するは遺憾の事也。

【註】 名望ある人=a man of high reputation. 無責任なる=irresponsible. 遺憾の事=a regrettable matter.

40. 過般帝國政府が滿洲地方の開発と各國商業の發展に資せんが爲め旅順を開放するに決したのも此方針に出でたるに外ならず。

【註】 帝國政府=The Japanese Government. 開發=development. 發展に資せんがため=for the purpose of promoting. 開放する=to open. 此方針に出でたる=in pursuance of this policy.

41. 苟も外國文學を譯出せんとせば逐語譯にては原文の趣を失ひ漫然意譯をなせば原文の力を感せず、原文の調子を捕へ之を邦文に現はしてこそ巧みなる反譯と云ふ可けれ。

【註】 苟も=if. 逐語譯=word-for-word translation. 原文の趣=features of the original. 漫然意譯をなせば=unless it be done with due consideration か. 調子=tone. 巧みなる反譯=a skillful translation.

42. 昨日午前十時三十分總理大臣は自邸より馬車を宮中に驅り天顔に咫尺し奉り骸骨を乞ひたりと云ふ。

【註】 總理大臣=Premier. 自邸=private residence. 天顔に咫尺し奉り=received in audience by the Emperor. 骸骨を乞ふ=to render one's resignation.

43. 診察に來りし醫師患者の細君に向ひ「何て此様に人事不省になるまで捨置きました、早く呼びにお寄越しなさればよいに」細君「デモ夢中になりますまでは貴君を呼びますのは不承知で御座いましたもの」。

【註】 診察に來りし=came to examine. 人事不省=lose one's senses. 呼びにお寄越す=send for. 夢中になりますまでは=before he lost his senses. 不承知=do not consent.

第二章の部

1. 或日本人が米國で友人を病院に訪はんと出掛けた時、途中で道が知れなくなり、病院へ行く道を尋ねんと思つたが Hospital の語が出ない、「こうつとホテル……ホテルは宿屋たぞ」忖考へた末思切つて“what the sick-man by and by all right house?” とやつてのけたのは大膽至極でないか。

【註】 或る=a certain. 訪ふ=visit. 途中で道が知れなくなり=he lost his way. 考へた末=after cudgelling his brains for some time. 思切つて=boldly.

2. 鹿兒島に恩師マードック先生を訪はんとて今朝發

京致候ところ一足違ひにて七時の急行に乗り遅れ候爲め牛歩的の汽車が厭に相成り、此地に下車仕候。

箱根を過ぐる頃細雨糸の如かりしも駿河に入りて止み申候、されど富士は雲深く鎖して姿を見せず、富士川は濁流急にして連日の雨の名残を示し申候。

【註】 恩師 = benevolent teacher. 一足違ひにて乗遅れ = having missed the train which I might have taken had I arrived a moment earlier. 細雨(糸の如き) = a thick drizzle. 鎖して = wrapt up. 濁流 = the muddy current. 名残を示す = indicate.

3. 壽江は只夢路を辿る思ひである、自分の足が何處を踏んで居るかさへ知らぬ、そつと入口の敷居を跨いで上り框を上らんとして始めて自分の跣足である事に心注いた、然も足を拭く可き雑巾がない。

「壽江、壽江」と俊之は待ち兼ねるやうに「どうしたかね、誰れも居ないから早くお出で」。

【註】 夢路を辿る思ひ = like one in a dream. 敷居 = threshold. 上り框 = step が良からん. 心注いた = aware. 待ち兼ねるやうに = impatiently.

4. 自稱粹人曾禰荒助は何時か女義太夫の小清を片瀬の自邸に招きて一段語らせた迄はよかつたが聴て彼れは義太夫を聞くと悲しくなると稱して隣室に退き、中頃からグーグー高鼾で寝込んだので、女ながらも一方の旗頭、曾禰の此無禮の仕打を憤つて座を起ち爾來どんな事があつても曾禰の招聘には應じない事にして居る。

【註】 自稱粹人 = a would-be amateur in music. 女義太夫 = a ballad-singer にて差支なからん. 一段語る = recite a scene. 迄はよかつたが = so far so good. と稱して(伴つて) = under the pretence that. 高鼾で寝込む = sleep snoring aloud. 旗頭 = expert. 無禮の仕打 = in sole it bearing. 憤つて = grow indignant. 招聘には應じぬ = refuse the request.

5. 熊公「こんだ村田中將がグルグル回る家を發明中だとよ」。

八公「それは珍らしくもねエ、己は疾に見た」。

熊公「イツ見た」。

八公「酒をたんと呑んだ時よ」。

【註】 村田中將 = Lieutenant-Gen. Murata. グルグル回る家 = a revolving house. 珍らしい(事) = unheard-of thing.

6. 伊勢の濱に駒ヶ嶽は素より其敵に非ざるも一月場所に伊勢が駒を食つたる例ありしより大いに味を以て見物する中、伊勢シャニムに突きかけ駒が押へて泉川に極めるを伊勢イヤダと逃げて廻り込み駒の少しアワテル處を伊勢内がけに持たれ込まんとし大相撲となり伊勢に大いによき處ありて看客扱はと手に汗を握る中、伊勢又イラツテ押し來たりしも駒土俵際に踏止まり左の方へウツチャリたれば伊勢つぶれて駒の勝は至當ながら伊勢も能く取りたり。

【註】 素より其敵に非ず = no match for. 一月場所 = the January performance. 食ふ = beat accidentally. 味を以て見物する = to welcome the match with wild enthusiasm. シャニムに突きかけ = rushed furiously. 押へる = repelled the attack splendidly. 極める = try. 逃げて廻り込む = dodge. 手に汗を握る = watch with breathless interest. イラツテ = coup de grace. 土俵際 = the edge of the ring. ウツチャリ = an adroit skill of dodging. 能く取りたり = had manoeuvred well.

妙な男の命拾ひ

7. 横濱市北方町六百廿五番地人足業外山淺次郎(五十六)と云へるは酔へば川の中に浮かしある材木の上杯へ寝轉びて人に笑はるゝを得意とする妙な男なるが昨日

も長島橋の下手にて此手をやらんとして河中に轉げ込み
半死半生になり居る處を壽町署の木村石野二巡査が通行
人と共に救上げたり。

【註】 人足業=a coolie. 浮かしある=moored. 得意とする=pleased. 此
手をやらんとして=to try his usual trick. 轉げ込み=fell down. 半
死半生=came within an ace of drowning. 通行人=passers-by.

8. 講評は參謀總長をして爲さしめたり、今次の演習
は參加團隊尠からず、且つ臨時召集編成のものを以てせ
り、然るに其成績概ね良好にして一般に進歩の狀あり、朕
太だ是れを嘉す、爾將卒益す奮勵し、世界の進運に伴ひ
我軍の精銳を増し、以て干城の任を盡さんことを期せよ。

【註】 講評=criticism. 參謀總長=the Chief of the General Staff. 今次の
演習=the present manœuvres. 臨時召集編成のものを以てせり=
formed from the Reserves. 進歩の狀=evidences of progress. 朕=
We. 益々奮勵する=exert greater zeal. 進運に伴ひ=to keep pace
with the progress. 精銳=excellence. 干城の任=the duties of the
defenders of the State.

9. 税制の整理は國民負擔の均衡を圖るを目的として
必ずしも租税の輕減を目的としたるものに非ずと雖も整
理の結果地租に於て田畑地租八厘減を始めとし營業税、
織物消費税、砂糖消費税 其他各種の税目に亘りて税額の
減少を來し國民の負擔を輕減すること寡からず。

【註】 税制の整理=the taxation readjustment. 負擔=the burden. 租税
の輕減=reduction of taxes. 田畑地租八厘減=the 0.8 per cent. re-
duction of taxes on arable land. 營業税=business taxes. 織物消費
税=the textile consumption tax.

10. 外國人に土地所有權を許す可きや否やの問題は多
年の宿題にして、之が爲めには種々の議論もありたる所

なるが今日に於ては格別なる異論もなく此法案の議會を
通過せるは我が國民の實力と自信とが發達せるを示すも
のなり。

【註】 土地所有權=the right of land ownership. 格別なる異論もなく=
without any serious oppositions. 法案=bill. 通過=pass. 實力=
real ability. 自信=self-confidence.

11. 今様大岡裁判 京橋區采女町の待合大國家事三柿
伊三郎は昨年親戚より一頭の黒犬を貰ひ「クロ」と名付
けて我子の如く可愛がつて居ると先頃來黒がフト姿を隠
したるより心當りを尋ねたれど一向解らず果は尋ねあぐ
んで斷念し居たるに先頃同區丸屋町の待合吉川屋の前を
通るとフト目に付いた犬は何ぞ計らん黒なるより早速同
家へ談判に及ぶと女將吉川 お金が之は他より買入れたる
なりと云ふので伊三郎は此旨三十間堀分署へ訴出たり、
ところが同署の石川警部が兩方の申立を聞くと兩方共水
掛論なるに當惑したるが爰に一生の智慧を絞り出し犬の
「クロ」を双方の中央に置きさて原被兩造一緒に犬の名を
呼ばしめたるに「クロ」は伊三郎の方へは目も呉れず尾
を振つてお金の方へ行きたるにぞ爰に裁判はお金の勝と
なりたるが近頃頗る振るつた珍裁判と云ふ可し。

【註】 待合=an assignation house. フト姿を隠した=suddenly disappeared
尋ねあぐむ=tired of the search. 斷念する=give up. 何ぞ計らん
=to his surprise. 訴出たり=he lodged the complaint. 申立を聞く
=listened to the statement. 水掛論=argument without evidence.
當惑し=at a loss. 一生の智慧を絞り出し(妙方を案出した)=after
cudgelling his brains, he at last hit upon a good idea. 目も呉れず=
giving no attention. 振つて=wagging.

12. 今回米國政府は滿洲鐵道中立に關する提議を致し

ましたが、本件は帝國の緊切なる利益に關する事項なるのみならず、帝國と最も親交ある友邦の提議に係りまするから政府に於きましては之に對し特に慎重なる考慮を加へた次第でございます。帝國の滿洲に於ける政策は門戸開放、機會均等の主義を嚴守するにある事は固よりでございます。然るに米國提議の實行は「ポーツマス」條約と北京條約に依りて確立しましたる滿洲の事態に根本的變動を與ふるものでございまして其結果甚だ重大なるのみならず、南滿洲鐵道の附近に於きましては引續き同鐵道の我が領有に屬すべき事を期しまして其信念の下に諸般の事業を經營するものが甚だ多くございますから、今に及んで此鐵道を放棄するが如きは、我が帝國の責任上到底之を許すことが出來ない所でございます。依つて帝國政府に於きましては、本月廿一日を以て遺憾ながら米國政府の提議に同意する能はざる趣を同國政府に回答するの已むを得ざるに至つた次第でございます。帝國政府は米國が此問題に關しましては我が意のある所を諒とすべく、又列國も我が態度の公正なるを認識することであらうと信じて居ります。

【註】 鐵道中立=the neutralization of the railways. 提議を致す=put forward a proposal. 緊切なる利益に關する=vitality concerns the welfare. 門戸開放、機會均等=open door and equal opportunity ポーツマス條約=Portsmouth Treaties. 滿洲の事態=the present state of things in Manchuria. 根本的變動=radical change. 諸般の事業=numerous undertakings. 經營する=carry on. 遺憾ながら=with great regret. 諒とする=sympathize with. 態度の公正=fairness of our attitude.

講義及作例

第壹章

第壹課

太陽地平線上に顯はるゝや否や彼れは寐床を離れて仕事を始む。

(商船學校入學試験問題)

和文を英譯する際には初學者は先づ其單語及句の英譯から考へて行かねばならぬ。ソコデ本文の單語及句を研究すると。

太陽 は月。地球と共に定冠詞の the を要する事は中學二三年級の諸君の既に熟知せらるゝ事である。

地平線 は the horizon であるがこれも中學生は英語の時間に於て聽かずとも大抵熟知して居る字であらうと思ふ。

上 は above the horizon でなくてはいかぬ。此場合の above は higher than の意味で 1,400 ft. above the sea-level (海拔千四百尺) 杯云ふ時に用ゐらるゝ above と同用法に属するのである。

顯はる は appear 或は rise でよろしいが to be を用ゐて no sooner is the sun up than he..... とするもよからう。

や否や は as soon as, no sooner.....than が最も普通である。此他 scarcely.....when, hardly.....before 等も「や否や」と譯するが本文に是等を用ゐては時間が餘り急迫して居るやうで面白くない又早起と云ふ意味から with the lark he rises の如き expression も興味があると思ふ。

寢床を離れる は leave bed, rise, get up, get out of one's bed 等色々ある事と思ふ。

仕事を始む は begin one's work, set to one's work 等幾らもあるが太陽地平線に現はるゝと共に起出づる位の人だから勤勉と云ふ意を含ませて go at one's work 又は buckle to one's work 等も眞狀が寫されて一段面白いと思ふ。

次に二三の作例を掲げるから讀者諸君は諸君が今迄に読み來たつて得た智識で一文を作り後ち作例と引合せて貰ひたいのである。始めから作例のみを見て自ら試みる事をしない人は薄志弱行の人と言ふてよいのである。

(作 例)

1. As soon as the sun peeps above the horizon, he leaves his bed and begins his work at once.
2. No sooner does the sun appear on the horizon than he leaves his bed and goes at his work at once.
3. He leaves his bed at the first peep of the dawn and sets to his work at once.
4. With the lark he rises and at once buckles to work.
5. At the first blush of the morning he gets up and goes about his work at once.

第 二 課

余の行くも行かざるも汝の關する所に非ず。

(商船學校入學試験問題)

本文も第一課の和文と同じく商船學校の入學試験問題であるが非常に簡易なるものである。唯「關する所に非ず」云々が工夫を要する丈にて關するを relate to とか connect with 杯譯するは大いに不可である。猶各語句を順次に研究して見やうなら。

行くも行かざるも は whether I go or not も或は又 I go or stay at my pleasure もいづれもよい。

汝の關する所に非ず は That is none of your business が一番適譯であるが此外 That does not concern you, 或は That is not your concern 又は意譯をして Don't worry yourself too much about other people's concern 等もよからう。

(作 例)

1. Whether I go or not is none of your business.
2. Whether I go or not is not your concern.
3. I go or stay as it pleases me. That's none of your business.
4. I am at my pleasure to go or not. That is no business of yours.
5. Whether I go or not is wholly left to my preference. Don't trouble yourself about the things that do not concern you.

第 參 課

長命の人は十中の八九早起き少食です。

(東京高商入學試験問題)

「英語世界」記者が高島教授の談話なりとて報ずる所に據ると東京高商の問題提出に就いては同校當局は餘程苦心するとの事である。と云ふのは私立學校等に兼勤する教授連が多い所から萬一不知々々の間に夫等の校にて

教へたものが問題に出ては第一不公平であると云ふので入學試験問題は英語科に全く關係のない教授連が選ぶ。その選んだものを英語教授連が更に寄合ッて其中の四題とか五題とかを決めるさうである。之は實にそうして欲しいもので何しろ幾千の受験者の死活の岐れる所である。問題の撰擇には充分念をいれて貰いたいものである。宜なる哉歴年の高商入學試験問題を見ると此苦心の跡が見えて(少くとも和文英譯に於ては)皆中學卒業生の學力に適當の問題である。此試験で落第すれば全く落第者の學力の足らぬので問題や試験官を憾む可きでない。

閑話休題として例の如く先づ單語及び句の説明から始めると。

長命の人は long-lived men か men who attained longevity か或は men who arrived at old (advanced) age 若くは men who enjoyed long lives 等孰れもよからう。唯 long life men や long living men 等の誤は慎しむ可きである。

十中の八九 は文字通りに in nine cases out of ten もよいがモット簡單に Most of..... を冒頭に置くか mostly 又は for the most part を挿句として入れるかしてもよい。

早起き は諸君御存知の early risers で十分であるが之を in the habit of early rising とするもよし early birds (=early risers) 杯もよからうが強いてさう凝るにも及ばぬ事だ。

少食 は「少食家」の意味であるから文字通り small

eaters も宜からうし又 temperate in eating 或は eat moderately (又は temperately) 又は少し進んで observed temperance in eating 或は observed moderation in the indulgence of his appetite か avoided the excessive indulgence of appetite 又打消にして did not eat his fill 其他書換は種々出来る事であらう。

(作 例)

1. Long-lived men are mostly early risers and small eaters.
2. Most of those who arrived at advanced age have been early risers and temperate eaters.
3. Men who attain longevity are found for the most part to rise early and observe temperance in eating.
4. Most of those who enjoyed long lives were in the habit of rising early and eating moderately.
5. Most of those who attain old age are early risers and avoid excess in eating.

第 四 課

當港在留の外國人は春季運動會を豫期の如く昨日午後遊園地に於て大成功を以て舉行したり。

(神戸高商入學試験問題)

問題の批評はお預りとして直ちに單語句の説明に取懸る事とします。先づ。

當港の港の譯であるが之は港灣の意でなく開港地の意であるから harbour では拙い。port とす可きである。

在留の外國人は foreigners staying at this port てもよし又は foreign residents at this port もよからむ。

春季大運動會 は The spring athletic meeting 又は sports と云ふ字を入れて The spring athletic sports meeting 採するをよしとするのである。

豫期の如く は一寸受験者の頭を惱める句である。大抵の受験者の知つて居る expect と云ふ字を用ゐても as was expected では物足りない心地がする。それよりは as pre-arranged か as previously arranged 等が優れるやうである。

遊園地 は他校の受験者にはイザ知らず神戸高商の受験者には聞慣れ見慣れた語であらうと信ずる即ち The Recreation Ground である。

大成功を以て は副詞の successfully 又は with a great success も無論差支ないが此文章には随分 modifiers が多い事であるから文を切つて It proved a great success とか又は The function came off successfully 杯とした方が稍優るやうに思はれる。

舉行 は祝賀式杯を舉行するなれば celebrate 杯を用ゐるが (卒業式の如きは hold 又は take place) 會なれば常に hold である。

(作 例)

1. As previously arranged, the spring athletic meeting of the foreign residents at this port was successfully held yesterday afternoon on the Recreation Ground.

2. As pre-arranged, the spring athletic sports were held yesterday afternoon by the foreigners staying at this port on the recreation ground and the function proved a great success.

3. As pre-arranged, the foreign residents at this port held their spring athletic meeting yesterday afternoon on their recreation ground and the function came off very successfully.

(註解) function 運動會の如き場合の會を意味す—came off は行はれたの意。

第 五 課

著者が病氣でなかつたら其著述は今頃は印刷に掛つて居たでせう。

(東京高師入學試験問題)

著者 は author か writer か二者其一を選んでよからう author は inventing に關し writer は writing に關すると云ふ區別もあるが此場合それを區別せんでも差支ない。

病氣 の類語は澤山ある事であらうが初學者の最も能く知悉して居るのは ill と sick の二語であらう。是れも孰れを用ゐても構はぬ。時間の貴重なる試験場杯に於ては尙更 ill と sick の異同を考へる杯は時間不經濟の極みである。ill と sick の區別より He is illness, He is sickness 杯云はぬやう心懸けるのが根本の問題である。

なかつたら は過去の事實に反せる想像を表すのである。過去に於て著者は病氣であつたので。それを「もし病氣でなかつたら」と事實の裏を云ふのだから所謂 subjunctive past perfect の

if.....had (not) been

を用ゆ可きである。

著述 は work, book 孰れも可。

印刷 は to be printing で差支ない。本が印刷する

のぢやなくてされるのだから being printed でなくてはいかぬと思ふ人もあらうが printing でも差支ない。其譯は「家が建てられつゝある（建築中）」と云ふを

{ The house is being built と云ふが本式であるが
The house is *building* と云ふも等しくよいのである

之と等しく「太鼓が鳴つて居る」は

{ The drums are being beaten と云ふも
The drums are *beating* でも差支ない。

居たでせう は現在の事實に反せる想像である。故に conditional の past 即ち would か should かを用ゆ可きだ。本文は主格が三人稱 (book なり) だから無論 would である。

序に諸君に記憶して貰ひたいのは現在の事實の裏を想像する時は動詞は過去を用ゐ過去の事實の裏の想像を表はす時には大過去を用ゐると云ふ事である。次に一例を擧げるから能く玩味し給へ。

If I *had* money I *would* buy it

(今) 金があつたらそれを買ふんだが (金がないから買はぬ)

If I *had had* money, I *would have bought* it (其時) 金があつたら買ふのだつたが (金がなかつたから買はなかつた)

(作 例)

1. If the author had not been ill, the work would be printing now.

2. Had the writer not been ill, the work would be in the press now.

3. But for the illness of the author, the work would have gone to the press by this.

4. Were it not for the illness of the author, the work would have been put to press by this.

5. If it were not for the illness of the author, the work would be printing now.

6. Had the author not been ill, part of the work must have passed through the press by this (or appeared in print now).

(註) in the press は印刷中の意。--But for, were it not for, if it were not for は皆「あらずりせば」と云ふ意味の熟語—gone to the press, put to press 印刷にかけられるの意—part of the work 著作の一部分—pass through the press 印刷を了へる。(一部分が印刷を了へたの故全體は印刷中となる譯)

第 六 課

丁度汽車に間に合ひました。今立つと云ふ所で未だ立ちませんでした。

(千葉醫專入學試験問題)

汽車 は train が總稱的で宜い。car は車室を意味するのだから勿論當を得て居らぬ。

間に合ふ は in time がよろしい. in time には「間に合ふ」と「時経るに従ひ」(in due course of time) の二意義を有して居る.

比 I was just *in time* for school.
丁度授業の間に合ふた.
較 He will fully regain his health *in time*.
時が来れば健康舊に復せん.

又 in time と on time は似而稍非なるものだから此區別も知つて置くのが必要であらう.

比 I was just *in time* for the train.
丁度汽車に間に合つた.
較 The train was *on time*.
汽車は定刻に着いた(時間表に何時何分とあれば其通りに)

今立と云ふ所 は「正に立つ」と云ふ意味なのだから about to start もよからうし going to start もよろしいし on the point of starting 杯も悪くはない.

(作 例)

1. I was just in time for the train. It was about to start when I arrived.
2. The train was on the point of starting when I arrived, and I could barely catch it.
3. I was just in time for the train. It began to move when I got in. A minute later I might have missed it.

(註解) barely 漸く—catch は汽車に間に合ふて乗るの意で miss (遅れて乗損れる) の反對—It began to move when I got in (No sooner did I get in it than it began to move 杯としてもよからう—A minute later 云々は記者の附加した此足(?)の譯文.

第七課

向ふて其事を私に秘して置くやうにと汝に頼んだのか。

(東京高師入學試験問題)

向ふ は he, they 孰れでもよい. the other party 杯苦心するには及ばぬ事だ.

其事 は it でも the matter, the affair てもよからう.

秘して置く には色々 variation があらう. 先づ最も普通なのは keep the matter from me, keep it a secret from me 杯であるが bind one to secrecy about the matter 杯と云ふ expression もある.

例 “Then I must begin” said he, “by *binding* you both to absolute *secrecy* for two years.”—Doyle
「それでは君方に二年間は全く秘密を守つて貰ふと云ふ約束をお話を致さう」と彼れが云ふた.
under the rose 杯と云ふのも矢張り in strict confidence 杯と同じく「秘密にする」と云ふ意味である.

此句は元と神話に戀神 Cupid が沈黙の神 Harpo-

crates に Venus の情事を他人に洩さぬやうにとて薔薇の花を賄賂として送つたとある。それから rose は秘密の記號となつたと云ふ。sub rosa は此 under the rose の羅句語として普通に用ふる。尙此他に breathe not a syllable 杯も應用が出来るであらう。

【例】 Don't breathe a syllable about it. それに付いては一言も云ふな。

(作 例)

1. Did they ask you to keep the matter from me?
2. Were you asked by them to keep it a secret from me?
3. Are you under a promise of secrecy about the matter?
4. Did he tell it to you under the rose?
5. Did he bind you to secrecy about it?
6. Did he ask you to let it go no further than yourself?
7. Were you asked not to breathe a syllable about the affair?
8. Did he tell it to you in strict confidence?

第 八 課

四季各其特質を有す。今設し春を花の時とせば夏は之れ何とか云ふ可き。

(札幌農學校入學試験問題)

官立學校の入學試験の和文英譯問題を比較考究して見ると札幌農學校の問題と商船學校のとは少し他の校のに比して毛色が變つて居るやうである。殊に商船學校のは年度に依りては中々面白い問題が出て居るやうである。

本課の講義の材料たる問題も一寸面白い問題ではないか。所て例に依つて單語及句の説明からやつて行つて見ると。

四季 は無論 four seasons で之はモウ中學卒業生の頭の中からは容易に出て來る言葉である。

各 は each で此場合 every の拙なる事は言はずもがなであらう。

特質 之は多少學生の頭を苦しませる語であらう此場合受験者の頭の中を X 光線て透して見ると特質の特は特別の聯想推考から particular, special, distinctive 等が頭の中に交々生じて來る事であらうと思ふ。それから質は性質の類推から character, nature 等が頭に浮んで來て special character, particular nature 等の百鬼 (?) が哀

れなる受験者の脳裡を往來する事であらう。又中には稍 long word ではあるが characteristics 杯を逸早く考付く連中もあるであらう。閑話休題として然らば特質には何が適語であらうかと考へて見ると無論 characteristics もよいし其他 peculiarities もよからうし。一步を進むれば special feature や particular aspect や characteristic feature が適譯と思はれる。

花の時 は the season of Flower 又は Flower Season である。time は稍拙である。(本文の時が期節の意味であるから)。

今設し……とせば は無論 Supposing that か Now if we suppose で十分である。

夏は之れ何とか云ふ可き は無論文字通りに譯して意味は十分に通ずるのである。唯助働詞は何を用ふ可きかと云ふ事は多少學生の頭を悩める事であらう what do we call summer? では「夏の時は何と稱して居るか」の意味となるし what shall we call summer? では「何とか云ふたらよいてせうか」と先方の指揮命令を待つやうで面白くない。本文の真意は「春の花の時に於ける如く假りに夏に何とか名を付けるとしたなら何と云ふたら適切だらう」と云ふ假想なのであるから宜しく preterite を用ひて what should we say of summer? とす可きと思ふ。(speak of は不可)。尙序に云つて置くが四季の名は單獨に用ゐられる時には冠詞を要さない事となつて居る。

(作 例)

1. Each of the four seasons has its special features. Supposing spring as the season of flowers, what should we call summer?

2. The four seasons have each its own characteristic aspect. Now if we call spring as 'Flower Season,' how should summer be named then?

3. Each of the four seasons has its own characteristics. If the name of Flower Season be given to spring, what title should be given to summer?

4. The four seasons possess each its particular aspect. If spring be called the time of flowers, what name should we give to summer?

5. Each of the four seasons possesses its own peculiarities. If we call spring as the season of flowers, what should we say of summer?

(註解) each が主格となれば動詞は無論單數である。—seasons を主格としても have each とすれば其次の代名詞は its で差支ない。

第九課

よしや今から二三年戦争が續いても我國
は軍資の不足を感ずる事はありますまい。

(神戸高商入學試験問題)

よしや は Even if か although か其の孰れでもよい。

【例】 *Even if it should rain, I would go.*

よしや雨が降っても参ります。

Although I may fail this time, I can have another chance next year.

よしや今年失敗しても來年又やります。

今から二三年 は two or three years *longer* で from now は甚だ拙である。

續く は last, continue の外に go on 或は長引くと云ふ意味で drag on 抔もよろしい。

軍資 は war funds, resources, の外に sinews of the war 抔もよからう。序に注意すべきは funds 及び resources が常に複數に用ゐらるゝと云ふ事である。

【例】 He contributed ¥. 10,000 toward the war *funds*

彼は軍資に一萬圓献金した。

不足 は lack, want, deficit, insufficiency 等色々ある

感ずる は直譯して feel ではないけぬ。experience か suffer from (...に依りて困る) とす可きである。又不足

を感ずるを run (come) short of なる句を以て表はしてもよい。

【例】 He comes to me for pecuniary aid whenever he *comes short of* cash.

小遣錢に欠乏すると僕の處へ借りに來る。

(作 例)

1. Even if the present war should last a few years longer, our country would never experience the lack of war funds.

2. Even if the war should continue two or three years longer, we should never be in want of war funds.

3. Supposing the war should last a few years, our country may not experience the lack of funds necessary to carry it on.

4. Although the present war may drag on for two or three years longer, yet no deficit of war funds need be feared.

5. The present war may go on for a few years longer as likely as not, yet our country would never suffer from insufficiency (deficiency) of war funds.

6. Our country would never come (run) short of war funds, should the war continue for a few years longer.

7. Our war resources would never be wanting, even though the war should drag on for a few years longer.

8. Even if the war should continue for some years to come, drain of resources would never occur in our country.

9. Supposing the war should last for a few years longer, there would occur no such thing as the lack of war funds on our part.

10. In case the war should continue for a few years longer, our country may never be put on short allowances in the sinews of war.

第拾課

何とマアお芽出度い事ではありません
か。

(外國語學校入學試験問題)

何とマア は how 又は what を以て當然表はす可き
である。

お芽出度い事 は good fortune, success, a lucky event
等であるが本文のお芽出度い事ではありませんかを譯す
るに Is this not a lucky event ではどうも不備である。本文
は第二人称に向つて何かお芽出度い事があつたのを祝す
るのであるらしいから congratulate you on a lucky event
なる構文とせずばなるまい。どうも congratulate なる字は
本文に必要である如く思はれる。それから congratulate な

る字は後に personal pronoun が来てそれから前置詞の on
を伴ふ。詰り congratulate one on one's success の如き形と
なるのであるから此形を注意して記憶して貰ひたいの
である。

「貴君の成功を祝す」と云ふのを I congratulate your
success 杯するは本邦學生の犯し易い mistake だ
である。云ふ迄もなく I congratulate you on your
success と personal pronoun を二度用ゐなければ
ならぬのである。

それから又本文の「お芽出度い事」と云ふのを a matter of
congratulation の如く譯せばそれで別に動詞の
congratulate を用ゐなくてもよいのである。
congratulate の代りに wish (give) one joy of the
occasion の如くするも同意を表はす事が出来る。

(作 例)

1. What a lucky event! I congratulate you on the occasion.
2. What a good news this is! This is really a matter for congratulation.
3. How lucky you are! I wish you joy of the occasion.
4. Allow me to offer you my hearty congratulation on the lucky event.
5. What a matter for congratulation this is!

6. Let me tender my sincere congratulation on your success.

7. What a luck you are in! I really congratulate you on the occasion.

8. How I congratulate you on your good fortune!

(註) 作例中の (4) と (6) とは書簡文體で口語體でない

第拾壹課

私は斯く丈夫でも何時病氣になるか分りませぬ。

(高等學校入學試験問題)

斯く丈夫 は色々言方もあるが simple adjectives を用ゐて so strong, healthy, sound でもよし phrase にして in such good health か又は in such sound, robust, perfect health 杯もよし又 enjoy (好き物を有する意にして樂しむと譯す可からず) と云ふ字を用ゐて enjoy such good health 又は enjoy such good state of health 杯とも云へる。

病氣になる は become ill もよいが fall sick, taken ill 杯の特別な ill, sick に付く動詞は是非共覺えて用ゐて貰ひたいのである。此外マダ affected with illness 或は laid up (寝る) with illness もある。

何時……か分りませぬ は when は絶對的に用ゐぬ

方がいゝやうだ who knows I may not.....? 即ち邦語の「誰れか知らんや」の形や who knows but that I may.....? (but that は that.....not の意) 或は who can tell that I may not.....? 若くは There is no knowing that I may... ..? (-ing の前に no があると It is impossible に相當する)

(【例】 Then is no going in such a storm = it is impossible to go in such a storm こんな風には逆も行かれぬ)

等の種々の言方がある。それから又 God only knows とか Heaven knows とか The Lord knows 杯云ふ phrase があるがこれを用ゐてもよい。神様のみが知つて居るとは 人間は誰れも知らぬ事を意味するので詰り no one knows と同意味なのである。

(作 例)

1. I am in such robust health now, but the Lord knows that I may be taken ill at any time.

2. I am enjoying such excellent health just now, but no one can tell that I may fall ill at any time.

3. I am quite strong now, but who knows I may not fall ill at any time?

4. Although I am enjoying such good state of health now, there is no knowing that I may never be laid up in sick-bed.

5. God only knows that I may not fall ill at any time, although I am quite healthy now.

6. Happily I am free from any disease now, but who can tell I may not fall ill at any time?

第拾貳課

私は奴隷になるより寧ろ死んだ方がよい。

(東京高師入學試験問題)

奴隷になる は become a slave が最も普通であるが其外に serve as a slave (奴隷として使はれる) 又 reflexive にして slave oneself 杯もよい。それから又 slave it と云ふ句もある。此場合の it は所謂 indefinite の it と云ふて別に何を指すのでもなく slave it で奴隷のやうに働くと云ふ意味なのである。

【例】 We were born to *slave it* for our lords.

(Tennyson.)

妾達は殿方に酷き使はれに生れて来たのです。

此外に六かしく云へば reduced to a condition of bondage 杯とも云へる。

寧ろ死んだ方がよい I would rather die than...又は I would sooner die than.....が最も普通で後には to のない infinitive が来るのだが I would die before I would.....の如くに後を clause にして接續詞の before で連結してもよい此外 I would choose death before 又は I prefer death to.....の如く death と云ふ名詞を用ゐてもよい。

(作 例)

1. I would rather die than slave it.
2. I would sooner die than remain alive as a bond-man.
3. I would rather die before I would be reduced to a condition of bondage.
4. Far be it from me to think of living as a slave in order that I may be spared my life.
5. Between death and slavery I would most readily choose the former.
6. If I were to choose between death and slavery I would at once prefer the former to the latter.

第拾參課

此のお方はあのハンケチを一割五分まければ三ダース買ふと申されました。

(東京高商入學試験問題)

此のお方は This gentleman で買物に来たお客様を捉へて this man 杯と云ふは無禮許し難き事である。

あのハンケチ は三ダースと云ふ事が後にあるから是非複數にしなければならぬ。扱 handkerchief を複數にするには英語では普通 f 又は fe で終る語は ves に變へて plural とすると云ふ規則なるが handkerchief や safe,

proof, roof の如きは其例外で ves に變へずして其儘 s を附するのである。

一割五分まければ は一割五分丈けまければの意味だから fifteen per cent. の前に by と云ふ前置詞を要する譯である。

まける は reduce (又は discount) the price 又は make reduction (又は abatement) でよろしい。

三ダース は three dozen で three dozens でなくともよろしい。尤も dozen が不定複數として用ゐらるゝ時には s を付ける。

{ three dozen of eggs 玉子三ダース
dozens of eggs 澤山の玉子

買ふ は buy, have, take いづれでもよいが purchase は稍文語染みて拙である。

申されました は(邦語にては過去なれど) 此方が と其客人を眼前に置いて云ふのなれば英語としては this gentleman *says* と現在を用ふ可きである。

(作 例)

1. This gentleman says that he will take three dozen of these handkerchiefs, if we discount the price by 15 per cent.

2. This gentleman says he will buy three dozen of these handkerchiefs, if we make a discount of 15 per cent.

3. This gentleman will have three dozen of these handkerchiefs if we make a discount of 15 per cent.

第 拾 四 課

昨日倫敦在留の友人よりの手紙に依りますると同地目下の商況は頗る活潑ださうて御座います。

(東京高商入學試験問題)

倫敦在留の友人 は a friend of mine staying in London でも或は又關係代名詞を用ゐて a friend of mine who is now in London とするもよろしい。

手紙に依りますと は according to the letter が最も普通で其他 a friend of mine staying in London wrote me to the effect that (何々の趣を) てもよし A friend of mine... informs me in his letter that の如くするも一法である。

商況 は condition of trade, state of trade の外に the market なる字が矢張商況と云ふ意味に用ゐられる事を記憶して貰ひたいのである。

頗る活潑 は very active 又は quite brisk でよろしいそれから今一つ注意す可きは冒頭の昨日であるがそれは其手紙を受取つたのが昨日なのであるから according to the letter which I received yesterday の如き構文にす

るのが必要で中途或は冒頭へ abruptly に yesterday を入れたのでは何に係かるのやら一向分らないであらう。

(作 例)

1. A friend of mine who is staying in London sent me a letter yesterday in which he informs me that the market is very brisk there.
2. The market of London seems to be very brisk at present, according to the letter which I got yesterday from a friend of mine there.
3. A friend of mine who is now in London wrote me to the effect that the condition of trade there was very active.
4. As stated by a letter which I received yesterday from one of my friends now in London, the state of trade seems to be very active there.
5. Yesterday I received a letter from a friend of mine staying in London, in which he says that a very brisk market is witnessed there.

第 拾 五 課

私の時計は掏摸が捕縛されてからズツと後で見付かりました。

(海軍機關學校入學試験問題)

私の時計 は my watch でナンボ物數奇でも clock を懷に入れて歩く人はあるまい。故園遊の「櫻風呂」と云ふ落語に次のやうな文句がある。

「妾のうちには時計は數が出来ない程御座ひます一々番號て呼出すんですよ。ア、モシ々々本局の三百三十番……只今御話中。なんて丸で電話の様ですわ」と云ふから「それぢや今日一つ借りて行かうぢやないか」と云ふと「サア々々お持ちなさい。アスコに掛かつて居るボン々々時計がよう御座います。あれが嫌なら無期徒刑…」

イクラ此の講義だつてタマにはこんな冗談も云はなくては肩が凝る。

掏摸 は pickpocket が普通で他に pickpurse, cutpurse 杯云はぬにあらねどそれは單に奇を好むのみて用ふ可きものでない。

捕縛 は arrest 又は catch

ズツと後に は long after, after a long time, some time before, after the lapse (經過) of a considerable time がよからう。

(作 例)

1. My watch was found long after the pickpocket had been arrested.
2. It was long after the arrest of the pickpocket by the police that my watch was discovered.

3. My watch was found long after the arrest of the pickpocket.

4. The man who had picked my pocket of my watch was caught at last, but it was after the lapse of a considerable time that the article was found out among his booties.

5. Long after the arrest of the pickpocket, my watch was discovered.

6. The pickpocket was caught, but it was some time before my watch was found amongst the stolen goods.

第拾六課

人は壯健の時而已眞に愉快である。

(海軍機關學校入學試験問題)

人は は One, we, you, a man 等色々云へる。
壯健 は healthy, hale, strong, 又は in good (robust, strong) health 杯之も色々云へるのである。

時而已 は only when が最も穩當だらうが when を絶対に用ゐないで only those who are strong and healthy と云ふやうな書き方も亦一法である。

眞に愉快 は簡單に is really happy と云ふて無論差支ないがマダ其外に find real happiness 又は enjoy true happiness of life 杯とも云へる。

(作 例)

1. Only when a man is healthy, he is really happy.
2. A man is truly happy only when he is hale and strong.
3. One can enjoy real happiness of life only when one is in robust health.
4. Unless one is enjoying sound health, one can not enjoy true happiness.
5. Real happiness of life can be tasted only by those who are hale and strong.
6. Only when enjoying sound health, one can find real happiness of life.

第拾七課

軍人は戦ひ學生は學ぶ其所行異なりと雖も其本分を盡すに於て何ぞ分たん。

(札幌農學校入學試験問題)

本題の如きは入學試験問題の中ても随分六かしい方の部に屬す可きものである。

軍人は戦ひ を單に soldiers fight では物足りない。後に in battle を添へれば improve する, 次の

學生は學ぶ も然りて students learn では矢張り物足りぬ感があるから at school を附加する方がよい。

其所行 の所行は doings, actions, work 又は occupation, pursuit のいづれでもよい。

異なりと雖も は the two are different in their occupations, but 又は although more or less difference lies between the two in their work 其他 they differ in their pursuit 或は they do not pursue the same line of occupation とするもよろしいし又 In the nature of their occupation they are not one とするもよろしい。

本分を盡すに於て は in discharging (又は performing) their duties 又は in the fulfilment (果す事) of their duties がよからう。duties が複數であると職務の意味で本文の本分と云ふも彼等が本來に爲す可き職務の意味なのだから複數の duties を用ゐた方がよい。單數の duty は義務の意味である。

When did you begin your duties?
比 何時から御勤務ですか。
較 It is our duty to love God.
神を愛するは我々の義務なり。

何ぞ分たん は there can be no distinction (區別) between 又は they are essentially alike 或は they are one and the same でよろしい。

(作 例)

1. The soldier and the student seem to differ entirely in their occupations, the former fighting in battle and the latter learning at school, yet there is no distinction between them in discharging their duties.

2. Though there is difference between soldiers fighting on the field and students pursuing their studies at school, yet they are alike in their spirit of performing duties.

3. I do not think there is any distinction between the soldier fighting in the battlefield and the student learning at school, in respect of their doing their duties, though they may differ in their work.

4. Soldiers fight at the front and students study at home. Thus they are different in their work, but no difference exists between them so far as their discharge of duties is concerned.

5. What difference separates the soldier fighting in battle and the students learning at school in so far as they perform their duties, though they may pursue different occupations?

6. Though the soldier and the student are not engaged in the same occupation, the one fighting in battle and the other learning at school, yet so far as the faithful fulfilment of duties is concerned, I do not believe there is any distinction between them.

第 拾 八 課

先日見ず知らずの人が金を借りに来たが
随分蟲のいゝ男だ。

(高等学校入學試験問題)

先日 は the other day 或は a few days ago かつては容易に受験者の頭に浮んで来る。

見ず知らずの人 は stranger でありが若し今少し意味を強めやうとなれば utter (or complete) stranger 杯としてもよい。

金を借りに は to borrow money of me でもよいが to ask for pecuniary help 杯とすれば多少 improve する。

随分蟲のいゝ男 これが此試験で一番難關であつたらしい、國文英譯の答案を擔當した某教授の談なりとして傳ふる所に依れば之れはモウ good-natured と譯しても bold と書いても點は相當に呉れたさうである、が「蟲のいゝ男」は good-natured と云ふ意味ではない、俗間で「随分あの人も蟲がいゝね」杯と云へば矢張 bold, audacious の方の意味である、随分は what が通譯であらう、「随分蒸暑い晩だね」は What a sultry evening it is! である。

比 隨分—what!
較 無—how (must)!

(作 例)

1. A few days ago, a complete stranger came to my house to borrow money of me. What a bold-faced fellow he must be!

2. An utter stranger came to my house, the other day, for pecuniary help. What an audacious man he is!

3. An utter stranger came to my house the other day and asked me for a loan of money. How completely lost to shame he must be!

第 拾 九 課

是迄讀んだ英書の中で私に少なからぬ興味と利益を興へたものは「マーデン」氏の書いた「プッシング、ツー、ザ、フロント」と云ふ書物でした。

(神戸高商入學試験問題)

是迄 は till now では Japo 臭い, hitherto, 及び so far が best で其他 up to the present, up to now 等も passable である。

讀んだ は現在に到るまでの經驗を表すのだからテンスは何うしても present perfect にしなければならぬ。

即ち have read (発音は red で red ではない).

英書の中で は of all English books.....である. 本文の中では of て among 或は in では不可である.

【例】

{ 君の友達の中で誰れが一番好きですか.
{ Whom do you like best of all your friends?

少なからぬ は not a little, no small, greatest, (最上級にするがよい) most 等でよい.

興味と利益 は文字通りに interest and profit てもよし又 the book which proved most interesting and instructive てもよい.

マーデン氏の書いた は written by Marden であるが此 written は略しても差支ない.

【例】

{ Whom is it by?
{ 誰れの著書ですか.

と云ふ書物 は the book entitled.....てよからう. 此の場合と云ふ は entitled で called 杯としてはいけない.

(作 例)

1. Of all English books I have read up to now, the "Pushing to the Front" by Dr. Marden gave me the greatest interest and profit.

2. Of those English books I have hitherto read the one which gave me not a little interest and profit was a

book entitled "Pushing to the Front" written by Dr. Marden.

3. Of all books written by Englishmen which I have read so far, one which proved most interesting and instructive to me was Dr. Marden's "Pushing to the Front."

4. Of the English books I have read so far, none gave me such interest and profit as Marden's "Pushing to the Front" did.

5. Dr. Marden's "Pushing to the Front" gave me greater interest and profit than any other English book which I have read so far.

第 十 課

私は先日父が何れの學校へ入學を志望するかと問ひました時に神戸高等商業學校の入學試験を受けて見たいと答へました。

(神戸高商入學試験問題)

先日 は the other day か a few days ago てよから

5.

比 { the other day 先日.
較 { one of these days. 近日.

何れの學校 は what school の方が which school よりも宜しい。

入學を志望する は desire (intend) to enter である。因みに入學志望者は applicants for admission である。

受けて見たい は have a mind to take the entrance examination of..... 杯がよからう。見たいは have a mind 以外に should like 又は wish 等もよい。但し試験を受けるを receive 杯とするは誤りである普通は take 或は go in for を可とするのである。

- 書面を受ける receive a letter.
- 招待を受ける accept an invitation.
- 傷を受ける sustain a wound.
- 罰を受ける undergo punishment.
- 球を受ける catch a ball.

(作 例)

1. The other day, when my father asked me what school I intended to enter, I replied that I had a mind to take the entrance examination of the Kobe Higher Commercial School.

2. When I was inquired the other day by my father what school I intended to enter, I answered that I wished to go in for the entrance examination of the Kobe Higher Commercial School.

3. The other day, my father asked me what school

I intended to enter, so I replied that I was desirous of taking the entrance examination of the Kobe Higher Commercial School.

第 廿 一 課

君は中學校を卒へて後更に高等の學校へ入學を希望せらるゝ由承りましたが本當ですか。

(札幌農學校入學試験問題)

中學校を卒へる は finish the middle school course である。graduate from と云ふは専門學校でも卒業する時に用ふるの本文には大袈裟で不可である。

更に は further であるが本文には全く省いて譯出せぬ方がよい。

高等の學校 は a higher school, a higher institution 又は an institution of higher grade (程度) である。

- 比 高等學校 = a high school
- 較 高等の學校 = a higher school

承りました は I am told, I hear, they told me, somebody told me 又は I understand (此場合の understand は了解するの意にあらざして I understand にてさうてすねの意)。

本當ですか は Is it true? 又は Is it a fact? である。

(作 例)

1. I am told that you are going to enter a higher school after you finish the middle school course. Is it true?
2. Some one has told me that you intend to enter a higher institution, after you finish the middle school course. Is it your true intention?
3. I hear you are going to take the entrance examination of a higher school after you finish the middle school course. Is it a fact?

第 廿 二 課

私は雪の降る前より降つて居るときが暖
いと思ひます、時に此様に深き地上の雪の
融けるのにはどれ程かゝりますか。

せ

(商船學校入學試験問題)

私は……思ひます は I think, it seems to me 又は「氣がする」と云ふ意で I feel も good.

雪が降る前 は直譯して before it snows 又は when it is about to snow もよし又は when the sky threatens

snow 抔とすれば一層 improve する。threaten は雨雪の將に到らんとする意で threaten rain 又は形容詞に用ゐて threatening sky (今にも降り出しさうな空模様) 抔云ふ事がある。

降つて居る は when it is snowing.

暖い は勿論比較級にして warmer とせねばならぬ。

時に は by the way 又は by the by のいづれでもよ

い。

此様に深き地上の雪 は the snow lying so deep on the ground であらう such deep snow では意が足りぬ。

融ける は melt だが away を付けて melt away としたら尙更文が活きるであらう。

何れ程長くかゝりませうか は how long will it take が定形であらう。

(作 例)

1. I think it is warmer when snowing than when it is about to snow. By the by, how long will it take to melt away the snow lying so deep on the ground?

2. I feel warmer when snowing than when it is going to snow. By the way, how long will it take to melt the snow lying so deep on the ground?

3. It seems to me to be warmer when snowing than when the sky threatens snow. By the way, in how many days will the snow lying so deep on the ground melt away?

第 廿 三 課

或る有力なる實業家が外國漫遊者の爲めに市内に一大旅館建設の計畫中である。

(東京高商入學試験問題)

有力なる實業家 は influential business men 又は men of influence in the business circle (又は world) 杯とするもよからう。

外國漫遊者の爲めに の爲めには in order to や for the sake of 等は當らない。これは便益を圖る爲めにと云ふのだから for the benefit of foreign tourists とするもよし to supply the wants of foreign tourists の如くするもよろしいし或は又外客を收容すると云ふ意味で for the accommodation of foreign tourists 或は to supply accommodation for foreign tourists の如くするも一法である。

建設 は build よりも establish の方が優つて居る。

計畫中 は planning, contemplating の外に have sprung a project, have a plan under consideration, 又は the project of.....is on foot とするもよいのである。

(作 例)

1. Some influential business men are now planning

to establish a large hotel in this city to supply accommodation for foreign tourists.

2. Some influential business men have sprung a project of establishing a large hotel in this city for the accommodation of foreign tourists.

3. A number of influential business men are now contemplating the establishment of a large hotel in this city in order to supply the wants of foreign tourists.

4. Some men of influence in the business circle have a plan under consideration to establish a hotel on a large scale for foreign tourists.

5. Some influential persons of the business world are now planning the establishment of a big hotel in order to supply the demands of foreign tourists.

第 廿 四 課

學問の事に限らず何事にても専心ならざれば成功する事覺束なきものなり。

(東京高工入學試験問題)

學問の事に限らず何事にても は Not only in matters of learning but also in everything else 又は whatever object you may pursue, be it learning or anything else てよからう。

専心 は全精神を傾注するの意味であるから concentrate one's whole energy としたらよからう。心こころを直譯して concentrate one's thought は拙である。energy (精力)の方が優つて居る。又此外に patient (steady 或は industrious) application も専心の意が寫せるし。又 devote oneself heart and soul to the work 等もよい。

成功する事覺束なし は one would hardly succeed 又は success を主格として Success is hardly possible 或は Success is doubtful もよし又ズツと碎いて one is likely to fail もよいであらう。

(作 例)

1. Not only in matters of learning but in everything else, success is doubtful unless one concentrate one's energy upon the work in hand.
2. Success is hardly possible, in learning or in everything else, unless you devote yourself heart and soul to the work in hand.
3. You can hardly succeed, not only in matters of learning but also in everything else, without putting yourself heart and soul to the work in hand.
4. Devote yourself heart and soul to your object of pursuit, whether it be learning or anything else, or success is uncertain.
5. Success is only attained by your steady applica-

tion to your line of work whether it be learning or anything else.

第 廿 五 課

路が狭くて馬車も人力車も通れません。

(東京高師入學試験問題)

路 は本文の場合では road である。way は何處どこソコへ行く道筋みち杯はしの意であるから不可である。其他 path 又は passage 杯も其場合に依りては用ゐて差支ないが、普通知つて居る road を用ふればよい。

狭くて は as the road was narrow としてもよし又 the road was narrow and とするもよい。又 being (あるが故に) を用ゐて the road being narrow とするも可である。其他 the road was too narrow to と「too—to=so that..... not」の形を用ゐてもよい。又少し文章臭くなるが owing to the narrowness of the road も一法であらう。

馬車も人力車も で「も—も」の形を英譯するに both.....and では不可である。both carriage and jinrikisha can not pass では兩方一緒には通れぬが一方なら通れる意味となつて了ふ。双方を打消す時には either.....or か neither.....nor でなくてはならぬのである。

例へば

Do you know Mr. Sato's parents? と云ふに答へて、

I do not know both of them = 両方は知らぬが
 比 内一人は知つて居る。
 較 I do not know either of them. = 兩人共知らぬ。
 = I know neither of them.

それから馬車は通例 carriage て人力車は邦語から英語化したもの一つである。 geisha, jinrikisha 杯は既に英語化して居る。情けないものが英語化したものだ。今に Eigo-no-sensei 杯と云ふのも英語化して Standard Dictionary 杯に載せられる事であらう。そして其解釋は An epithet ridiculously given to one who teaches the English language with but smattering knowledge of it 乎。

閑話体題 扱 wagon は荷馬車て coach は stage coach 杯いふて乗合馬車。 cart は小さい荷馬車。

通れませぬ は can not pass と pass を intransitive に用ふる方がよい。 pass through は通り抜ける。 pass by は傍を通るて爰には用ゐられぬ。

pass { through a gate
 by a building
 along the road
 the door (前を通る)

又本文を passive construction にして, the road can not be passed on a carriage or rikisha としてもよからう。

閑話体題は何の意か = 存在の事
 今井 此 字彙と文法を要するに
 此の人は其の事を知りぬ。

(作 例)

1. As the road is narrow, either carriages or rikisha can not pass.
2. The road being too narrow, it can not be passed on either a carriage or rikisha.
3. The road is too narrow for carriages or rikisha to pass.
4. The road is so narrow that it does not admit either a carriage or rikisha to pass.
5. The road is too narrow to allow either a carriage or rikisha to pass.
6. Neither carriage nor rikisha can pass with ease owing to the narrowness of the road.

第 廿 六 課

難破船の船員數名は其時通り掛つた汽船に救助されましたが其他は皆溺死しました。

(商船學校入學試験問題)

難破船 は wrecked ship 又は shipwrecked vessel である。

船員数名 は some crews は大いなる誤りである。何となれば crew は Noun of Multitude 即ち團體を組織して居る所の個人總體を表はす名詞だから其意味既に複數で更に其形を複數にする事が出来ない。だから本文の場合では some of the crew とか又は a few of the crew と云はなくてはならぬ。尤も sailors と云ふ字を用ふれば a few (several) sailors と云ひ得るのである。

通り掛かつた汽船 は a steamer that happened to pass by が best である。happened は「偶然何々した」の意味である。此場合偶然の意を譯出して accidentally の如き adverb を用ふるは拙である。

救助された は saved 又は rescued がよい。此兩者は災難の場合の救助である。helped は助力を與へるの意で爰て用ゐては誤つて居る。

他は は the rest 又は the others で兩者孰れを用ゐても動詞は plural にせんければならぬ。

溺死した は were drowned である。此字は常に passive に用ゐて前に to be の動詞か來る事を覺えて貰ひたい。he has drowned, he drowned の如き誤りは屢々學生の犯す所である。

【注意】 尙 通り掛かりの汽船云々を英譯する場合に於て a steamer that happened to pass by の後に the scene of disaster (被難の場所) 等を入れて a steamer that happened to pass by the scene of disaster の如くすれば文章が improve するのである。

(作 例)

1. Some of the crew of the shipwrecked vessel were saved by a steamer that happened to pass by the scene of disaster, but all the rest were drowned.

2. A few of the crew of the wrecked vessel were rescued by a steamer that was just then passing by the scene of disaster, but the rest were all drowned.

3. A few of the shipwrecked sailors were saved by a steamer that happened to pass by the spot, but all the rest sunk with the steamer.

第 廿 七 課

あの紳士は二年と同じ場所に住んだ事が御座いませぬ。

(東京高商入學試験問題)

あの紳士 は 無論 that gentleman で外にない。

二年と これが本問題中での最難物である。此二年とのとなかりせば此問題は頗る平易なものとなつて了ふ。高商問題にはチョイチョイこう云ふのがある。「博覽會見物旁大阪へ参りました」の旁とか「請取書の一本位は」の位の如き實に感服する良い問題である。某學校が

「蟲の好い男」とか「コッホ博士」杯を出して受験者をイヂめるのと比べると誠に大人氣のある態度である（因みに「旁」は partly. 「位」は at least). それは扱置き本文の二年とは何と譯す可きかと云ふに so long as を用ひて even so long as two years としても又は even for two years in succession (in succession は引續いての意) とするも同じく意が寫せる譯だ。

同じ場所 は the same place 又は the same house で爰に same と云ふ形容詞の前には必ず定冠詞の the を附する事を忘れてはならぬ。

住んだ事がありませぬ は「今迄」の事をいふのだから tense は present perfect にして has never lived とした方がよい。

(作 例)

1. That gentleman has never lived in the same house even for two years long.
2. That gentleman has never lived in the same house even so long as two years.
3. That gentleman must be very fond of changing his residence, as he has never lived in the same place for two years in succession.

第 廿 八 課

年三十五、東京高等工業學校卒業、多年機械工業に従事す、機械工場の技師長に雇はれたし。

(東京高工入學試験問題)

扱本課も一字一句に付き最初講義を試みるのであるが斯の如き職業希望廣告等には特別なる文範のあるものなれば其類例一二を先きに掲げて見やう。

(1)

SITUATION WANTED.

A Japanese, 27 years of age, desires a situation in a Foreign Firm. Speaks and writes English, and has experiences in Import and Export Business. Best references.

Address "N. O." care of
Yorozu-choho Office.

年廿七、英語に通じ多年輸出入業に従事す、外國商館に雇はれたし、確實なる保證人を有す。朝報社内 N. O. 生宛申込を乞ふ。

(2)

WANTED.

English Lady desires Engagement

hours daily; understands singing; no objection to country district.

"A. W." Tansumachi 14,
Yotsuya.

英國婦人日々数時間の英語教授として雇入を望む唱歌の素養あり、地方行不厭。

四ッ谷箆筒町一四 A. W.

是より單語及句に付いて説明しやうなら。

東京高等工業學校 は the Tokyo Higher Technical School か又は the Tokyo Polytechnic College もよからう。

卒業 は graduated from (at) と verb にするよりも a graduate of と noun を用ふる方が本文の場合では都合がよいやうである。

機械工業 は engineering work 又は mechanical engineering 或は mechanical work でよい。

(作 例)

1. Wanted.

A situation as chief engineer in some engineering works by a graduate of the Tokyo Technical College, aged 35. Has experiences in mechanical engineering.

2. Wanted by a graduate of the Tokyo Higher Polytechnic School a position as chief engineer in some mechanical works. Age 35. A long experience in mechanical engineering.

3. Wanted.

A position as chief engineer in some mechanical works. Aged 35 and a graduate of the Tokyo Higher Technical School. Has many years' experiences in mechanical engineering.

第 廿 九 課

海軍兵學校の入學志願者は昨年來非常に其數を増したとの事であるがこれは云ふまでもなく日露戦争の影響である。

(海軍兵學校入學試験問題)

海軍兵學校 は the Naval Academy が最も普通であるが時に又 the Naval Cadets' School と云ふのである。

入學志願者 は applicants (又は candidates) for the admission to てよいのであるがこれを極く simple にして those who desire to enter 云々とするもよからう。

非常に其數を増した は the number of.....has remarkably increased ても又はgreatly increased in number 或は number of.....has made a considerable increase と increase を noun にして用ふるもよいのである。

云ふまでもなく は單に of course てもよいのであるが其他 needless to say であるとか undoubtedly 又は no

doubt 又は we need hardly mention (又は add) 杯種々雑多な言方があるであらう。

影響 は effect 又は influence が最適当であるが「結果」と云ふ意味の result を用ふるも妨げないのである。因みに日露戦争は必ずしも the Russo-Japanese war でなくとも the late war で充分意が達するのである。

(作 例)

1. It is said that the number of the applicants for admission to the Naval Academy has considerably increased since last year. No doubt, this is one of the influences of the Russo-Japanese war.

2. The number of those who desire to enter the Naval Academy has made a remarkable increase since last year. We need hardly mention that this is one of the effects of the late war.

3. The applicants for admission to the Naval Cadets' School have greatly increased in number since last year. This is of course an effect of the late war.

第 卅 課

私は小説家となるよりも寧ろ詩人とならん。

(外國語學校入學試験問題)

單語として六ヶしいものは一つもない。小説家も詩人も皆中學卒業生の知つて居る字であらう。併し此二語に付いても随分 spelling の誤りはあつたさうである。自分が曾て某學校で英文法を教授して居つた折同僚の某氏に此校の學生は文法の微細なる規則を鵜呑にして居るが随分間違つた spelling をやると云はれて汗顔した事がある。兎角若い學生は本末を誤り易いものだ。spelling や pronunciation の土臺を堅める事は初學の内が大切だ。又稍進んだ學生は昔教はつたリーダーの一二杯を引つくり返して正確に初歩の智識を得るやうに勉めるがよい。

扱單語及句の研究に入らん。

小説家 は novelist で

詩人 は poet

よりも寧ろ...ならん は色々言方がある。一番普通なのが would (had) rather...than で其外 prefer...to 又は choose. before 杯がある。

【例】 余は生きて名折れとならんより寧ろ死せん。

I would rather die than live in dishonor
I prefer death to dishonorable life
I choose death before dishonorable life.

(作 例)

1. I would rather be a poet than a novelist.
2. I should prefer to become a poet rather than a novelist.

3. I don't care to be a novelist. I had rather be a poet.
 4. Between the poet and the novelist, I would choose the former.

第 卅 一 課

本校卒業後實業に就くもの最も多く教師となるもの之に次ぐ。

(外國語學校入學試験問題)

本校 は this school, our school が適譯。

卒業後 は after graduating from this school てもよいが graduates (卒業生) と云ふ字を用ゐて most of the graduates of this school と云ふやうな構文の方が better の様に思はれる。

實業に就く は go into business, enter business, 又は engage in business 杯と云ふのである。

最も多く は rank first (第一に位す) in number もよろしいのは勿論だが majority 又は greatest number 等を用ゐて其内に最も多くの意を含ませるもよいのである。

教師となるもの は差詰め those who become teachers て其以上凝る必要もあるまい。

これに次ぐ は前の rank first in number に對して rank second in number 又は come next in number を用ゐてよろしい。

(作 例)

1. A majority of the graduates of this school engage in business while those who become teachers rank second in number.
 2. Those who go into business after graduating from this school rank first in number and next to this come those who become teachers.
 3. Most of the graduates of this school enter business and next to them in number are those who become teachers.

第 卅 二 課

外國語を知らずして外交官となるは資本なくして商業を營むが如し。

(外國語學校入學試験問題)

外國語を知らずして は without the knowledge of foreign languages 又は without knowing any foreign language てよいのである。

外交官となる は to become a diplomatist では不備である。これは外交官とならんと欲するの意味であるから to aspire to become a diplomatist か wish to succeed as a diplomatist の如く言現はさねばならぬと思ふ。

商業を営む もこれと同様實際營むに非ずして營まんとするのであるから try なる字を附して try to carry on business 又は try to pursue mercantile business 或は又 go into business の如くする方がよいと思ふ。

資本なくして は without funds ても充分意は足りるであらうか without necessary funds の如く necessary なる形容詞を附すると多少文章が improve するやうである。

如し は單に like を用ゐて其次に ing を置くもよいが難句集で諸君御承知の might as well...as や又は no more...than を用ゐて外國語を知らずして外交官となるの不可なるは恰も資本なくして商業を営むと同様不可なりと云ふ意を含ませ you might as well.....を以て文章を始めるのもよいのである。

(作 例)

1. To aspire to become a diplomatist without the knowledge of foreign languages would be like trying to carry on mercantile business without necessary funds.
2. You might as well carry on a trade without funds as try to succeed as a diplomatist without the knowledge of foreign languages.
3. You can no more make yourself a successful diplomatist without knowing any foreign language than you can pursue business without resources.

4. A youth aspiring for diplomatic fame without the knowledge of foreign languages is like a merchant trying to carry on his business without necessary funds.

第 卅 三 課

観光の爲め我國に渡來する外客の數は年一年と増加するのにこれを收容す可き旅館の設備の未だ不完全なるは甚だ遺憾の事である。

(職業講習所本科入學試験問題)

観光の爲め は with the object of sight-seeing 又は單に for sight-seeing もよろしいし或はこれを infinitive construction にして to see sights とするも可である。又 観光の爲め渡來する外客云々を foreign sight-seers として for sight-seeing を省くも一法である。

渡來する は come over か或は visit を宜しとするのである。

外客の數 は the number of foreign guests (又は漫遊客の意味で tourists を用ゐてもよし)。

年一年と は yearly, annually の adverb の外に year after year 杯を用ゐてもよい。

増加 は increase であるが今現に増加しつつあるのだから present progressive の形を用ゐて is increasing とす可く又 on the increase (= increasing) なる phrase を用ふるもよいのである。

比 { on the increase (= increasing).
較 { on the decrease (= decreasing).

これを收容す可き は to accommodate them でもよいが for their accommodation とする方が slightly better のやうである。

設備 は accommodation 或は arrangement でよい。

不完全 は in imperfect condition 又は leave much to be desired 杯の phrase を用ゐたがよからう。

{ leave nothing to be desired = 完全
{ leave much to be desired = 不完全

甚だ遺憾の事である は we regret と personal subject を用ゐても或は impersonal subject を用ゐて it is much to be regretted とするもよし又或は it is a regrettable fact that... とするもよろしいのである。

(作 例)

1. It is said that the number of foreign tourists who visit Japan for sight-seeing is annually on the increase ; but we regret to note that the hotel accommodation for these guests still leaves much to be desired (or, is still in imperfect condition).

2. We are told that foreign sight-seers coming over to Japan are steadily increasing year after year. This is certainly gratifying to us ; but what ought to be seriously apprehended on the other hand is the fact that, owing to the limited number of hotels for foreigners, the wants of these guests will in some cases be hardly supplied.

3. While we are being told that foreign tourists who visit our country for sight-seeing are yearly on the increase, we regret to note on the other hand that the hotels for their accommodation are yet very few in our county.

第 卅 四 課

(A) 君は今度始めて東京に来たのですか。

(B) 然うでもないですが十年目に上京して様子が變つたのには驚きました就中電車の如きは最も著しいのでせうネ。

(C) 然うです實に便利になりました。

(東京外國語學校入學試験問題)

例に依つて先づ單語及句の研究を (A) から始めて見やうなれば。

(A) には單語で六ヶしいものは一つもない。唯注意す可きは。

始めてと云ふ邦語の副詞句を英譯するには如何に譯す可きやと云ふ事である。之は first を形容詞に用ゐて來た云々を名詞にしてこれに合するのが最良の方法であらう即ち (Is+今度+your first+來た+to Tokyo) であるが勿論 first come はいけない之を名詞にすれば是非 visit である、又始めてを副詞句其儘に for the first time とするも勿論良いのである。at first は不可である。参考の爲め first を含む成句を次に比較考究して見ると。

- first (副) 始めは (事物の順序を表し通例) (then に伴はる)
- at first 始めの内は (soon, after a while) (等に伴はる)
- from the first 始めから
- in the first place 先づ第一に
- for the first time 始めて

此度 は this time と time を用ふる必要はあるまい this 而已で澤山である。

(B) には中々六ヶしい言葉があるよふだ。第一然うでもない杯は一寸初學者が頭を痛める事であらう。Not so 而已では物足りない。exactly を入れて not exactly so にすれば文が improve する。

十年目の目も一寸首を捻る所だ、併し斯う云ふ場合に目は英語で何んだらうかと苦慮するのは愚である。そよれり目に相當する英語は何んだらうかと考へるのだ。否一層平たく云へば目と云ふ英語を知らないから何と云ふ

て旨く胡麻化さうかと考へるが得策である。ダカラ強ち目と云ふ字に計り拘泥しないで I was here ten years ago もよからうし ten years have elapsed since my last visit もよからうし I made my first visit ten years ago も passable だらう。此場合に限らず小六ヶしい邦語を英語に譯する場合には各々其 idea を探つて譯して餘り文字にのみ拘泥せぬがよい。

様子 を sight of the city とか state of the city とかするのは superfluous で單に the city で意は充分に足りるのである。又 things を用ゐてもよし或は全然譯出せなくても濟ませる事が出来やう。

就中 は學生諸君の最も能く知悉して居るのは above all であらう勿論 above all を此場合用ゐて差支ない。

著しい は「目立つ」と云ふ意味なのだから marked, striking, remarkable, conspicuous, notable 等がよからう。

電車 は普通は car か tram car で間に合はせるが此場合は矢張り几帳面に electric car と云はねばならぬやうだ。

便利 は convenient (形容詞) もよろしい又 afford facilities, conveniences (名詞) もよからう。

(作 例)

1. A. Is this your first visit to Tokyo?
- B. No, not exactly so, for I was here ten years ago. But now that I have come up here for the second

time, I am surprised to see the city very much changed. Of all the changes, however, the most striking one is the electric car, I think.

C. Yes; it has become very convenient.

2. A. Have you come to Tokyo for the first time?

B. No, this is my second visit. But as I have come after ten years' interval, I am surprised to see the city very much improved. One of the most notable improvements is the electric car, I am sure.

C. Yes, it affords no small facilities.

3. A. Is this your first visit to Tokyo?

B. No, not exactly so. But as ten years have elapsed since my last visit, I am almost astounded to see the changes and improvements that have been made on the city. Above all, the most striking change is electric cars running in all directions.

C. Yes, indeed, the things have become highly convenient now.

(註解) after ten years' interval (は十年目での literal translation—improved (は「改善された」の意. changed よりも事實に合ふてよし—the things 物事が—highly 非常に—就中電車云々は色々 variation の餘地がある. 次の如きものもよからう—Among the rest, the electric car struck me as the most remarkable improvement.—Of all the changes, what seems to such a rustic as I (僕のやうな田舎者) the most conspicuous is the electric tram car. 等其外色々書換へる事が出来る.

第 卅 五 課

どんな競争が出ても辟易しませぬ。

どんな は any と whatever と二つで言表はす事が出来る。但し whatever なら通例文章の冒頭に置くし any なら文の中央に置くのを普通とするのである。

競争が出て の「競争」は competition であるが偕「出る」は何と譯す可きかと云ふにこれは、「出現」する意味の appear か arise が穩當なる字だらうと思ふ。其外 come forward や present itself 或は make its appearance 採もとりどりによるのである。ソコでマダ残つて居るのは「ても」だがこれは may を以て表はす。即ち whatever competition may arise とか any competition that may arise の如くに書くのである。

辟易しませぬ は will not shrink from it だよ。又 affirmative にして I am prepared to meet it. 或は I will boldly face it. てもよなのだ。

(作 例)

1. Whatever competition may arise, I will not shrink from it.

2. I will not shrink from any competition that may present itself.

3. Whatever competition may appear, I am fully prepared for it.

4. I will boldly meet any competition that may arise.

5. Come what will, I am ready to fight it.

第 卅 六 課

新銀行の總裁は第百銀行頭取池田謙三氏なり。

此和文は一見英譯をするのに造作もないやうに見えて儲筆を取つて譯して見ると——尤も譯し様にもよるが——意外に初學者を苦しめる點があるので本講話の材料に捉へ來たつたのである。例によつて用語の説明から始めると。

新銀行 は本文後半の干係より察して既に前述した新たに設立された銀行の意であるのらしいから a new bank でなく the new bank を用ゆ可きである。

總裁 は President 又は Head だが普通用ゆるのは前者である。

第百銀行 は the One Hundredth Bank で One Hundred Bank でない事は「第一銀行」が the First Bank で One Bank と云はないのと同じ理由である。

頭取 は「總裁」と違ふかと思つて和英字書を引いて

見ると同じ president に諸君は出會するであらう。詳しくは後から云ふが要するに爰だて難點と云ふのは。

池田謙三氏なり は is Mr. Kenzo Ikeda で別に説明す可き點もない。

乃で如上の語句を用ゐて英文に直すと。

The President of the New Bank is Mr. Kenzo Ikeda, President of the One Hundredth Bank.

となる。儲此短い文に二度宛同じ字が使つてある。一は Bank で一は President である。嘗て漢學の先生から幼學便覽で漢詩を作ること教へられた時絶句中に同一文字を用ふる勿れと云はれた事を記憶するが。其規則は English composition に於ても矢張 hold good するのである。併し本文の bank は實際左程目觸りでないが素人にも拙く感ぜらるゝのは President の重用である。試みに以上の英文を一讀すればイカ=モ突つかゝりがあるやうで可笑しく感ぜらるゝ。儲これは何うしてよいかと問ふたら敏き讀者の中から次のやうな二案が出たと假定する。

(a) The President of the new bank is Mr. K. I., Head of the O. H. B.

(b) The president of the new bank is Mr. K. I., who is also that of the O. H. B.

(a) は左程にも思へぬが (b) は如何にも幼稚な書方である。勿論文法上の誤はないが英文として上乘どころか人前へ出せるものと云へない。斯の如き場合に President の重複せるを省くには次の作例の如く敷衍譯をするも一法と信ずる。

(作 例)

1. The president of the new bank is Mr. Kenzo Ikeda, who occupies a similar position to the One Hundredth Bank.
2. The president of the new bank is Mr. K. I. who stand in a similar relation to the O. H. B.

第 卅 七 課

窓から見た景色は實に美しくいくら見ても見飽きがありません。

窓から は其儘直譯して from the window でよい。文典に「窓から」を at the window としてあるが at the window は出入の時にのみ限つて用ゐるので此場合には違ふ。

景色 は色々英語にある。scene だの view だの scenery だの landscape だのあるが scene は一場の光景を云ふので the night scene of Gion「祇園の夜景」など云ふ時に用ゐる scenery や landscape は山水の景色で一般的だ。だから「日本には善い景色が澤山ある」杯は Japan is famous in the world for fine scenery. 杯と云ふ。爰てよいのは view と云ふ字だ。view は同じ景色でも「ドコソコから

見た景色」を云ふので the view of Mt. Fuji from Mio「三保の松原より富士を望むの圖」杯云ふ時に用ゆる。だから view を和譯する場合には「から見た景色」として覺えて置けばよいのだ。唯どれもこれも「景色々々」と譯して置いたんぢやア活用が出来ない。因みに昔は sight と云ふ字まで「景色」と譯したもので It was a fine sight. 杯を得々として「それは好き景色でありし」杯とやつたものだ。が併し社會は進歩した。今ぢやそんな化物譯をする先生はドコの隅にも居まい。閑話休題。扱 view は前述の如く「……から見た景色」だから。原文の「見た」は別に譯出するを要せないのだ。即ち the view seen from the window と云ふのは redundant だと云ふ事が解るだらう。

實に は very である。和英字引杯を引つ張つて really や indeed を用ゐるのは愚だ。

美しい は beautiful でよい。これに付いて面白い話がある。記者がマダ去る地方に居た時英國婦人を二人連れて或名高い山に登つた事がある。山の中腹まで來ると一人の脊高の女が曰く。It's very pretty とハテ面妖なと思つて居ると一人の女が「斯う云ふ場合には pretty ぢやない。beautiful だ」と云ひ出した。イヤ pretty だイヤ beautiful だのと議論に果しが付かない。ソコで僕が It's not so very beautiful. It is pretty beautiful. とやると痞瀨持の脊高が I am not speaking to you, Mr. Imai. We never say "pretty beautiful." と云ふた事がある。ソリヤ pretty beautiful とは無論云はない。併し此時の軍

配はどうしても脊低女の方に擧げたかつた。兎角話が岐路に入るが「景色の美」は charming か beautiful だらう。

いくら見ても は直譯をすれば how often I may look at it だらうがこれは略した方がよい。

見飽きる は tired of looking である。

ソコで本文全部を今迄講述した語句を用ゐて譯して見ると。

The view from the window is very beautiful and we are not tired of looking.

だが、之でも不完全である。very beautiful and は構文が拙だ。此場合には so.....that を用ゐて so beautiful that とす可きである。それから are not tired の are も拙い。are not tired ぢや「飽きて居ない」と云ふ意味だ。「飽きが來ない」と云ふ方につつて we do not feel tired とか we do not get tired とした方がよい。がマダ足らぬ所がある。do not では意味が弱い。これは never を代りに用ゐた方がよい。それから looking だがこれは何を look するのだから解らない。無論 view が object だから looking の後に at it を入れる必要がある。

(作 例)

1. The view from the window is so beautiful that we never feel tired of looking at it.

2. We command such a fine view from the window that we never get tired of looking at it.

第 卅 八 課

生徒の一部は未だ校長に對する舊怨を忘れざるが如し。

生徒 は students, pupils, scholars いづれでもよい。前後の干係のない此様な短文に其孰れが最も當を得たりや抔いふ穿鑿立は無用と思ふ。

一部 は a section が best である。part や portion は此場合面白くない。黨派や團隊の「一部」には大抵 a section と云ふ字を用ふるのである。

未だ は「忘れざるが如し」を原文通り negative に譯せば yet であるが若し之を肯定文に譯出すると yet でなくて still である。

校長 も前出の生徒同様 President ても Principal ても Director てもなんでも構はぬ。

對する は前に來る可き名詞が「舊怨」であるから toward でなくて against である。

舊怨を忘れず は先づ「舊怨」の譯語から研究して行くと old enmity が誰れも最初に思ひ付く譯語である。old enmity の外に old scores 抔と云ふてもよいのである。scores は貯へ物の意から胸に貯へた怨と云ふ意味に轉じたので此意味の時に於ては普通 scores を複數形に用ふるのである。pay off old scores (舊怨を報ずる) とか quit

scores (舊怨を忘る) 杯云ふ熟語句が此 *scores* に干聯して在る。扱又忘れずは直譯して *have not forgotten* では the old enmity (*scores*) といふ object と一致しない。これは「忘れる」よりは「捨てる」方の意味の *give up* 又は *abandon* を用ゐて *have not given up (abandoned) old enmity (scores)* と云はなければならぬ。斯く或特種の noun には特種の verb の伴はれる事は能く注意記憶せねばならぬのである。扱以上は原文の negative を其儘英文打消文に譯出したのであるがこれを肯定文に譯して *have not abandoned (given up)* の代りに *still retain* (猶保有す) の如き動詞を用ゐて *still retain old enmity (scores) against the President* とも云へる。尙又「舊怨」も *enmity* や *scores* 計りてなく *grudge, malice, ill will* 等色々あつて之に干聯する動詞としては *still owe a grudge against the P—*, 又は *still bear malice against the P—*, 或は *still cherish ill will against the P—*, 等色々言方があるのである。

(作 例)

1. It appears that a section of the students has not yet abandoned old enmity against the Principal.
2. A certain section of the students appears not to have given up old scores against the Director.
3. It seems that some of the students still retain their grudge against the President.

4. A section of the students still owes a grudge against the President.
5. There are some among the whole students who still bear malice against the Principal.
6. Some of the students still appear to cherish ill will against the Director.
7. Embers of discontent against the Director are still smouldering among a certain section of the students.

第 卅 九 課

氏の如き名望ある人にして尙且つ斯の如き無責任なる言辭を弄するは遺憾の事也。

氏の如き名望ある人 は *such a man of high reputation as he* ても悪い事はないが平凡たるを免れぬ. *such as he* は之を縮めて *his* で言現はす事が出来る. 即ち *a man of his reputation* とすれば *such a man of high reputation as he* と同様で然かも文章が簡潔になる.

(比較一) { a man of *your* experience.
= a man as experienced as you are.

(比較二) { a man of *his* wisdom.
= a man as wise as he.

(比較三) { It is strange that a man of *your* learning should make such blunder.
= It is strange that a man *as learned as you* are should make.....

それから本文の「人」は「公人」に違ひないから publicist 又は public man を用ゐた方が唯の man よりは better であらう。又「名望」も reputation の外に prominence, standing 等を用ゐて a publicist of his prominence, 又は a public man of his standing 杯といふてもよいのである。

尙且つ は省略してよい。and yet を用ふ可き所でないのである。

斯かる無責任なる言辭を弄する は make such an irresponsible statement 杯が一番真先に頭に浮んで出る事だが irresponsible の代りに careless, light-hearted (「氣軽な」と云ふ意味から「無責任」の意に移る)。unguarded, perfunctory, inconsiderate 杯云ふ澤山の synonyms があるからこれらのいづれのものを用ゐるも隨意だ。又 make... statement に代ふるに speak in an irresponsible strain (無責任なる語調にて述ぶるも) 面白からむ。

遺憾の事なり は we regret 又は It is to be regretted 或は It is a regrettable matter 位なもので要するに此點で技倆を表はさうとするのは愚だ。

(作 例)

1. It is a matter of regret that a publicist of his standing should make such an unguarded statement.

2. We regret that such a light-hearted utterance should be made by a publicist of his prominence.

3. It is to be regretted that a public man of his position should speak in such an irresponsible strain.

4. We regret to hear a man of his prominence deliver himself in such an irresponsible strain.

5. It is surely a regrettable fact that such an inconsiderate statement should be made by a man of his reputation.

第 四 十 課

過般帝國政府が滿洲地方の開発と各國商業の發展に資せんが爲めに旅順を開放することに決したるも亦此方針に出でたるに外ならず。

(東京朝日新聞所載)

過般 は recently 又は the other day だがこれは便宜上全然省略して差支ない。

帝國政府 は the Imperial Government の外に the Japanese Government 或は our Government 等色々云へる。滿洲地方 「地方」とあるからとて必ずしも Man-

churian district とか Manchuria and its neighborhood 杯と直譯する必要はない。單に Manchuria でよいのです。

開發 は develop でこれが名詞になると development である。

各國商業 は commerce of every country は拙である。「各國」とは滿州に interest を持つて居る列國の事を云ふのだから commerce of the powers ならまだよろしいのだ。併しこれを international なる adjective を用ゐて the international trade (or commerce) とすれば文章の簡潔が保たれるのである。

發展に資せんが爲め は要するに「發展せしめんが爲め」の意に外ならないのだから for the purpose of promoting (前に develop を用ゐたから今度は promote がよからう) てよいのである。「資する」に拘泥して for the benefit of 杯する必要は毫も無いのである。

旅順口を開放する は to open Port Arthur で其後に to foreign trade を加へれば尙更言葉が明瞭になるのである。

決したる は decided で resolved は不可である。

亦此方針に出でたるに外ならず 要するにこれが本問題の難關なのである。此方針とは日本政府が滿州に於て採る所の門戶開放の主義方針を指すのであるから these principles 又は this policy 杯とりどりによい。「出でたる」は中々六ヶしい。これは邦語で解釋すれば此方針に従ひたるに外ならずの意だから in conformity with these principles か in pursuance of this policy で然る可きであ

る。「外ならず」も nothing but はあまり直譯でいけない。simply や merely を用ゐた方が却て活氣があつてよろしい。

それから此「亦此方針に外ならず」を原文通り文の最後に置いて This, too, was simply in pursuance of this policy では文章が甚だ拙くなつてしまふ。これは英文としてはよろしく文の冒頭に置いて It was in pursuance of this policy that..... の構文にす可きである。それから That the Imperial Government had recently decided to open Port Arthur was simply in pursuance of this policy も文法上點の打ち所はない。けれども It was.....that の構文に比すれば稍見劣りがする。作例の 2 は此所を甚手際よく切抜けて居るつもりである。1. 2. 兩者を何卒比較して戴きたいものである。

(作 例)

1. It was in conformity with these principles that the Imperial Government had decided to open Port Arthur for the development of Manchuria and the promotion of international commerce.

2. The decision of the Imperial Government to open Port Arthur for the purpose of developing Manchuria and of facilitating international commerce was simply in pursuance of this unchangeable policy.

第四十壹課

苟も外國文學を譯出せんとせば逐語譯にては原文の趣を失ひ漫然意譯をなせば原文の力を感せず、原文の調子を捕へ之を邦文に現はしてこそ巧みなる反譯と云ふ可けれ。

(文部省検定試験問題)

本題は教員検定試験問題中でも可成り難問題中の一であらうと思はれる。例に依つて先づ單語及句の研究を爲さんに。

苟も は通例 if...at all を以て譯出する。例へば If you do it *at all*, do it in earnest (苟もやる位なら眞面目にやれ) の如くてあるが本文では *at all* を強いて用ふる必要はない。

外國文學 は foreign literature 又は works of foreign writers で冠詞は要らぬ。

譯出 は translate, render が普通で turn into も翻譯の意味はあるがこれでは原文の莊重な趣は寫し得られぬ。

せんとせば は if you would translate では意足りぬ。if you *attempt* to translate 又は when you translate...を優れりとするのである。

逐語譯 は word-for-word translation 又は literal translation (文字譯) 孰れてもよいのである。

原文の趣 は 特色 と云ふ意味で characteristics, features of the original か又は charm (or flavour) of the original 等がよからん。

失ひ は lose か fail to preserve, can not represent 等でよい。

漫然 は多少考量す可きであるが記者は unless it be done with due consideration の如く補足的に譯したならば如何かと思ふのである。

意譯 は free translation.

力 は force 又は vigour がよい。power や strength は此場合幼稚である。

感ぜず は讀む者に 感ぜしむる能はず の意味なのであるから feel では不可である。impress the readers with the vigour of the original の如きがよからう。

調子を捕へ は catch the tone の catch は無くもがなであらう。直ちに其後の「邦文に現はして」に續けて represent (又は reproduce,) the tone of the original in one's own language の如くするのが一番佳いやうである。

巧みなる反譯と云ふ可けれ は a skilful translation must.....とするか又は it can not be called a good translation unless you can reproduce the tone of the original とするか又或は a good translation is such as will reproduce the charm of the originalとするか要するに種々の言方がある。

(作 例)

1. When you attempt to translate foreign literature into your own language, you will find that word-for-word translation often loses the features of the original, while free translation, unless it be done with due consideration, altogether fails to impress the force of the original upon the readers. The best translation is, we believe, one in which the 'tone' of the original is faithfully reproduced.

2. In attempting to translate foreign literature into Japanese, we have two methods, literal and free. In the case of the former, however, there is often a disadvantage of failing to preserve the flavour of the original; while the latter, unless done with due consideration, is far from impressing the readers with the force and vigour of the original. Anyway, it can not be called a good translation unless the tone of the original is faithfully reproduced in it.

第四十貳課

昨日午前十時三十分總理大臣は自邸より
馬車を宮中に驅り天顔に咫尺し奉り骸骨を
乞ひたりと云ふ。

(文部省檢定試験問題)

これは文檢問題中でも easiest なものゝ一つである。萬朝英文欄等を常に讀み居たる人には實に容易なる問題であつたらう。然るに何事ぞや受験者中の或者は骸骨を skeleton と文字通りに譯したるものありとは。此沒常識には驚かざるを得ない。

昨日午前十時三十分 は at half past ten yesterday morning 又は yesterday at 10. 30 a. m. の如くすれば passable である。

總理大臣 は Premier が普通であるが其他 Prime Minister 又は Minister President 杯とも云へる。

自邸より は from his (private or own) residence で差支ない。

馬車を宮中に驅り は drove to the Palace 又は proceeded to the Imperial court by carriage 或は又 drove の代りに rode も passable である。

天顔に咫尺し奉り は received in audience by the Emperor が最も普通であるが其他に granted audience が最もよいと思はれる。

骸骨を乞ひたりとぞ は tender one's resignation が普通で此他 humbly begged His Majesty to relieve him of his present post と云ふも可なのである。

(作 例)

1. Yesterday at 10. 30 a. m., the Premier drove to the Palace from his residence, where he was received in audi-

ence by the Emperor and humbly asked His Majesty to relieve him of his post.

2. It is reported that at half past ten yesterday morning, the Prime Minister proceeded by carriage from his private residence to the Imperial court. There he was received in audience by the Emperor when he begged His Majesty to relieve him from his office.

3. We understand that yesterday morning the Premier repaired in a carriage to the Imperial Palace, leaving his residence at 10. 30, and tendered his resignation to His Majesty.

第四十参課

診察に來りし醫者患者の細君に向ひ「何て此様に人事不省になるまで捨置きました、早く呼びにお寄越しなさればよいに」細君「デモ夢中になりますまでは貴君を呼びますのは不承知で御座いましたもの」。

(文部省檢定試験問題)

診察に來りし は came to examine (or diagnose) 杯がよいであらう。Examine は醫者側から云ふ診察と云ふ意で患者側からの診察(を受ける)と云ふ場合ならば consult a doctor である。

比 { a patient *consults* a doctor
較 { a doctor *examines* a patient

醫者 は診察に來た醫者と限定して居るのだから the doctor, the physician である。

患者 は patient の外に sickman 杯もよからう。
細君に向ひ は to the wife で差支ない(動詞はなくとも)。

人事不省 は lose one's senses (consciousness 又は become unconscious, (insensible) といふ。

捨置く は let him alone は勝手にさせるの意味だから拙だ。leave him uncared for 或は leave him unattended to 杯がよからう。

早く呼びにお寄越しなさればよいに 半分詰責的の語調が含まれて居るのであるから you should have sent for me sooner. がよいと思ふ。

【例】 { You should have consulted me.
= Why didn't you consult me?

夢中になりますまで は while he remained conscious 又は before he lost his senses 杯がよいであらう。till he fell unconscious は拙である。

呼びます は call you の不可なる事は言はずもがなであらう。矢張り此場合に「呼ぶ」は send for であらねばならぬ。

不承知で御座いました 承知不承知は consent to を用ふるの非常である。例せば(親が結婚に不承知である)は The parents do not consent to the match であ

る。今本文の 不承知 も consent を用ひ did not consent to sending for you: medical help とかへるもよし 又 he refused my advice to send for you 杯もよいと思ふ。

作例の第一に於ては原文に成る可く忠實なる譯を掲げ第二に於ては free translation を示す事とした。

(作 例)

1. The doctor to the wife of a patient he came to examine:—

“I don't know, madam, how it is that you should have left your husband uncared for till he lost his consciousness like this. You should have sent for me much sooner.”

Wife,—“But, Doctor, while he remained conscious, he did not consent to sending for you for all my advice.”

2. Doctor (to the wife of a patient):—“Madam, I am afraid you have not done what you ought to have with your husband. He is in such serious condition. Why did you not send for my medical help before he had fallen insensible?”

Wife:—“Sir, I did all I could to try to persuade him to send for you. Oh, but he had persisted in refusing my advice while he remained conscious, and so, as soon as he fell unconscious I made haste to send for you.”

第 二 章

第 一 課

或日本人が米國で友人を病院に訪はんと出掛けられた時。途中で道が知れなくなり。病院へ行く道を尋ねんと思つたが Hospital の語が出ない。「こうつとホテル……ホテルは宿屋だぞ」杯考へた未思切つて “what the sickman by and by all right house?” とやつてのけたのは大膽至極でないか。

(女子英辭所載英語失策談)

第二章に於ては 試験問題以外の長文の英譯を諸君と共に研究しやうと思ふ。矢張り第一章に於けるが如く單語及句の研究を先にして後ちに作例一二を供するが故に讀者は豫め講義を讀みて得たる知識に依り一文を作り後ち作例と照合されん事を呉々も望む次第である。

或日本人が……出掛けられた時 は word for word に翻譯して行けばよろしい。唯米國では單に in America では不備のやうだ while he was staying in America とするが適切であらう。

途中で道が知れなくなり は直譯して he lost his way on the way は redundant である。 he lost his way のみでよい。

病院へ行く道を尋ねんと思つたが は邦語に於ける普通の癖として object を明示して居ない。て之を英語に譯する時に強いて必要と云ふのでもないが passers-by の如きを假の object とするもよからう。

hospital の語が出ない は he forgot the word "hospital" 又 somehow he was unable to get the word "hospital" out of his head 等其他色々 expression があらう。

こうつとホテル.....ホテルは宿屋だ は全文中 joke の中心であるから注意して譯す可きだ U-m hotel? ...No, that isn't the word, 又は Let me see. It wasn't hotel? No! 杯もあらう。

考へた末 は after thinking ては無論不備たるを免かれない。After much brain-work, after cudgelling his brains for some time 等大いに工夫を要す。

思切つて は resignedly, boldly, 又は he become almost desperate and..... 等ある可し。而して此譯し方に依り末文の大膽至極ではないか云々は省略した方が却つて Was he not bold? 杯言足すよりも英文としては數等優つて居るやうに思はれる。

somebody (作 例)

1. One day while staying in America, a certain Japanese gentleman went out to call on a friend of his who was under medical treatment at a hospital. Somehow he took the wrong road and could not find the hospital he was in search of. So he thought he would ask some one to tell him the way to it. As ill luck would have it, the word "hospital" had slipped the gentleman's memory and he could not, for the world, think it out. At last, however, he made up his mind and boldly approaching one of the passers-by said: "Sir, please tell me the way to...er... ho...ho...hotel...No, that isn't it...but what the sickmen by and by all right house."

2. A certain Japanese gentleman, while staying in America, went out one day to visit one of his friends who was being treated at a certain hospital. The gentleman had evidently got into a wrong path, for he could not, by any means, find out the hospital he wanted. He wished to get some body show him the way there, but unfortunately, the word "hospital" had slipped his memory, and try as hard as he would, he could not recall it. "Let me see," the gentleman soliloquised. "Well, was it hotel? No, that isn't the word. That's where I am now stopping and God be blessed, I am no sickman." Thus he racked his brains for a pretty long time, but all in

vain. This at last drove the unhappy gentleman almost to desperation, and approaching one of the passers-by he stammered forth:—"Sir, will you tell me the way to... er... to what the sickmen by and by all right house?"

第 貳 課

鹿兒島に恩師マードック先生を訪はんとて今朝發京致候ところ一足違ひにて七時の急行に乗り遅れ候爲め牛歩的の汽車が厭に相成り、此地に下車仕候。

箱根を過ぐる頃細雨糸の如かりしも駿河に入りて止み申候、されど富士は雲深く鎖して姿を見せず、富士川は濁流急にして連日の雨の名残を示し申候。

(萬朝報山縣氏通信の一節)

恩師マードック先生 は Professor Murdock, my benevolent teacher か或は Prof. Murdoch to whom I am greatly indebted for his kind instruction 等であらう。

訪はんとて は畢竟文章の冒頭に來る事故 with the intention of visiting.....とか with the view of paying my respect to.....とかす可きである。

一足違ひにて乗遅れ 云々は大きい考を要するところてこれは having missed the train which I might have taken had I arrived a moment earlier. 杯と意譯するもよからう。

牛歩的の汽車が厭に相成り は disgusted with the slowness of the train 或は the slowness of the train was truly disgusting.

下車 は get out 或は leave the car.

箱根を過ぐる頃 には邦文の性質上主語を略してあるが英文にては subject がなくてはならぬ。our train の如きを主格として while our train was passing through Hakone とするがまからうと思はれる。

細雨糸の如かりし は A thick drizzle was falling か又は gloomy mizzle was falling like smoke.

雲深く鎖して は wrapt up in misty cloud 杯がよからう。

濁流急にして連日の雨の名残を示し申候 は the muddy current of the River Fuji showed how hard it had rained for days on end 杯としたら多少原文の趣を傳へるだらうと思ふ。

(作 例)

1. With the intention of paying my respect to Prof. Murdoch, my benevolent teacher in Kagoshima, I left Tokyo this morning. Having missed the 7 o'clock express

which I might have taken, had I arrived at the station a moment earlier, I was obliged to take an ordinary train, the slowness of which was truly disgusting and I am now glad to leave it here at Okitsu. While this cursed train was passing through the tunnel of Hakone, gloomy mizzle was falling like smoke. As soon as it had entered the boundaries of Suruga, it cleared up fair. The august form of Mt. Fuji, however, was entirely wrap up in misty clouds while the muddy current of the River Fuji showed how hard it had been raining for days on end.

2. With the view of visiting Prof. Murdock, my respected teacher at Kagoshima, I left Tokyo this morning. As I missed the 7 o'clock express which I might have caught, had I got to the station a moment earlier, I took an ordinary train. The slowness of this train was truly vexatious and I have at last decided to break my journey here. While the train was passing through Hakone, a thick drizzle was falling which, however, cleared up as soon as we had entered the province of Suruga. Mt. Fuji was invisible being, wrapt up deep in gloomy clouds, while the muddy current of the River Fuji indicated heavy rainfalls which had continued for so many days.

第 参 課

壽江は只夢路を辿る思ひである、自分の足が何處を踏んで居るかさへ知らぬ、そつと入口の敷居を跨いで上り框を上らんとして始めて自分の跣足である事に心注いた、然も足を拭く可き雑巾がない。

「壽江、壽江」と俊之は待ち兼ねるやうに「どうしたかね、誰れも居ないから早くお出で」

(萬朝報「刃の下」の一節)

例に依つて單語及句の説明を始めると。

壽江 は此小説中の一少女の名であるが Miss Hisaye 杯とせず Hisaye と呼捨にして差支ない。小説中の人物は讀者と familiar であると云ふ事を表はす爲めに往々敬稱を省く事は西洋の小説を讀みし事ある諸君の既知の事柄であらうと思ふ。

只夢路を辿る思ひである H. wondered if she was not in a dream か又は H. was like one in a dream 杯で差支ない。辿ると云ふ言葉に腐心して trudge one's way 杯と直譯をしない方がよい。

自分の足が何處を踏んで居るかさへ知らぬ は she scarcely knew where her feet touched.

そつと は強いて slyly や gently と譯出せんでもよい。

入口の敷居 は threshold て of entrance 扱とするは蛇足である。

跨ぐ は cross て straddle や bestride は跨がるのだから大不可である。

上り框 は適譯に苦しむが漠然と step 位な處にして置くより外あるまい。

上らうとして始めて は無論 for the first time では不可である。斯う云ふ場合の始めては not.....untill が適譯であらう。

I did not discover the mistake until I reached home.

家へ歸つて始めて間違を發見した。

其他 scarcely.....when 扱もよからう。

心注いた は become conscious, aware 等で notice は稍向かない。

足を拭く可き は wipe the feet とするよりも wipe the mud off the feet の方が一日の長あるやうである。

雑巾がない は雑巾と云ふ字に苦心して mop や何やらとさわぐより there was nothing 位で澤山だ。

待ち兼ねるやうに は論無此場合 impatiently が適語だ。

どうしたかね は what's the matter with you? 又は

How is it that you linger? (グズグズするのは何う云ふ譯か) だよ。

誰も居ない は There is no one about (四邊に人は居らぬ)か又は The coast is clear. (邪魔物は居ない)等もよいと思ふ。

早く出て は Come in quick. て充分 quickly は不可。

(作 例)

1. Hisaye wondered if she was not in a dream, so completely entranced was she. Nor did she know where she was walking, for it was not until one of her feet touched the step after crossing the threshold that she became conscious of her being bare-footed. But then she could find nothing to wipe the mud off her feet.

"Hisaye! Hisaye!" impatiently called out her grandfather from his sick-bed, "How is it that you linger? No one about. Come in quick."

2. Hisaye was like one in a dream. She scarcely knew whether her feet touched the ground or not, but when she put one of them on the step after crossing the threshold, she at once became conscious of her being bare-footed. There was nothing to wipe her muddy feet with.

"Hisaye! Hisaye" impatiently called out Toshiyuki, "What's the matter with you? The coast is clear. Come in quick."

第四課

自稱粹人曾禰荒助は何時か女義太夫の小清を片瀬の自邸に招きて一段語らせた迄はよかつたが聽て彼れは義太夫を聞くと悲しくなると稱して隣室に退き、中頃からグーグー高軒で寝込んだので、女ながらも一方の旗頭、曾禰の此無禮の仕打を憤つて座を起し爾來どんな事があつても曾禰の招聘には應じない事にして居る。

(萬朝報「机の塵」)

自稱粹人 は a would-be amateur in music 又は self-styled dilettante in art matters 等が通譯であらう。尚 would-be には次の三種の意義がある。

- { a would-be philosopher 自稱哲學者
- { a would-be bride 是から將にならんとする花嫁
- { a would-be thief 成損ねた盜坊

又 amateur 或は dilettante は素人て遊藝に道樂を持つ人の事を云ふので粹人よりは寧ろ通人であるが本文の粹人と云ふは寧ろ通人の意であると断定して此の譯語を捉へ來たつたのである。

曾禰荒助 は邦語でこそ呼捨てにすれ英語の習慣では子爵の位にある人なら Viscount Arasuke Sone といふ風に云ふのが普通である。

何時か は原文には何時かコツソリとの意が含まれて居るかも知れぬが西洋人に讀ませる事を主意とする英文に於てはソコまで切込んで譯さなくとも單に not long ago, some time ago で充分であらうと思ふ。

女義太夫 は ballad-singer 又は woman reciter of musical dramas か

一段語る は recite a scene (or a piece)

迄はよかつたが は so far so good と云ふ句を挿入すればよいのであるが併し此句は左程必要と云ふ程でない。

聽て は文字通りに譯せば pretty soon, by and by 等であらうが文章の斯う云ふ繋ぎ目が翻譯には注意す可き處なので試みに。In the very midst of the recitation 等の意譯をする時は直譯よりは一日の長があるであらう。

義太夫を聞くと悲しくなる は大いに英譯に工夫を要す可きである願くば作例を見て首肯する所あれ。

稱して は under the pretence that 又は under the plea of 等であらう。

隣室に退き は retire to the adjoining room, 又は go to the next room.

グウグウ高軒で寐込む は go (drop) to sleep snoring aloud で十分だ。

女ながらも一方の旗頭 Of the softer sex as she is

(Woman as she is) she is an expert in her own line of arts
位で意が達するであらう一方の旗頭は記者不敏にして女
義界の消息を知らないが假りに小清が女義界中で或る派
の將であるとするも矢張り此場合では達人、名手の意を
譯出して expert, masterhand 等を用ゐた方が面白い、強
いて一派の頭領株であると云ふ事を譯出しない方が却つて
和臭を脱してよからうと思ふ。

此無禮の仕打を憤つて は grow indignant at this
insolent bearing of the host.

どんな事があつても は whatever may happen 杯と
直譯をすればそれこそ不得要領になつて了ふ。和文の意
はどんなに懇請されても位の意味のやうに見えるに依て
however earnestly her performance may be solicited と意
譯をしなければ到底意義が通ぜぬ。

招聘に應ぜぬ は refuse the request, 又は turn deaf
ears to the request.

(作 例)

1. Viscount Arasuke Sone is a self-styled dilettante
in art matters. Not long ago he invited Kosei, a reciter
of musical dramas and heard her recite a scene. So far
so good. In the midst of the recitation, however, he made
a pretext that the scene was so pathetic that he almost
felt like crying and retired to the adjoining room, where
what should he have done but soon dropped off to a
pleasant nap and was heard snoring aloud. Of the softer

sex as she was, Kosei being an expert in her own line of
arts, she thought this was an unbearable insult and
hastily took her leave from the house. After this
disagreeable incident, Kosei has turned deaf ears to all
requests from Viscount Sone for performances, however
earnestly solicited.

2. Viscount Arasuke Sone is a would-be amateur
in music. One day, not long ago, he invited a ballad-
singer Kosei to his villa at Katase and heard her recite
a piece. In the midst of the recitation, the Viscount
pretended that the scene was too pathetic and retired to
the adjoining room. But there, instead of giving vent to
his feelings, he soon went to sound sleep and was heard
snoring aloud. Woman as she was, Kosei grew very
indignant at this insolent bearing of the host and no
sooner had the piece been over than she beat a hasty
retreat. Ever since that time, she persists in refusing
the requests of Sone, however earnestly and politely her
performance may be solicited.

第五課

熊公「こんだ村田中將がグルグル回る家
を發明中だとよ」
八公「それは珍らしくもねエ、己は疾に
見た」
熊公「イッ見た」
八公「酒をたんと呑んだ時よ」
(萬朝報一口噺)

借本課には萬朝一口噺の英譯を諸君と共に試みやうと思ふ。例に依つて各字各句の英譯を最初に研究せん。

こんだ は此場合 this time では不可である。this time を用ふると村田中將が有名な inventor で毎度何か發明して居るが今度は廻轉家屋を發明すると云ふ事になる。此場合のこんだは now か at present を可とするのである。

村田中將 は Lieutenant-Gen. Murata て之を略して Lieut-Gen. Murata とする事が出来る。因みに海軍の中將は Vice-Admiral である。

グルグル回る家 即ち回轉家屋は a revolving house であるが。熊さん八さん間の談話であるから a house that turns round and round 位にした方が實を寫せるかも知れぬのである。

發明中 は to be inventing 又は devising が最も simple てよいが其他に racking his brains to invent a revolving house もよからうし。又 cracking his invention about a revolving house もよいが熊さんの口吻としては如何な物であるか。

珍しくねエ は that's not a rare thing 又は that's not at all a rarity (or uncommon thing) もよいがそれよりも a little better と思はれるのは that's nothing wonderful 又は that's not an unheard-of thing の方である。
己は疾に見た は I myself have seen it already で充分だ。

いつ見た は唯 when did you see it? では熊さんの驚いた所が目に見えないから So you have, have you? か you have seen a revolving house, have you? と置いてそれから後を And when? と云ふやうに敷衍して譯した方が寫實的である。

酒をたんと飲んだ時よ は日本語と同じやうに主文の I have seen it を取除けて了つて when で始め when I took a drop too much! とするが簡潔でよいが尙其後に my room revolved of itself を足すも強ち冗長にもなるまい。序に酒に酔ふは take a drop too much の外 drink hard 其他 drunk as a piper 等數知れぬ程あるが餘り凝つては思案に餘る事であるから take a drop (glass) too much 杯が充分であらうと思ふ。

(作 例)

1. Kuma :—Say, Hachi! I hear Lieut-General Murata is now inventing a revolving house.

Hachi :—Well, that's not a thing unheard of. I myself have seen one already.

Kuma :—So you have, have you? And when?

Hachi :—When I took a drop too much!

2. Kuma :—Hullo! Hachi. I hear Lieut-General Murata is now cudgelling his brains to invent a house which he can turn round and round just as he pleases.

Hachi :—Well, that's nothing wonderful, for I saw one not long ago.

Kuma :—You have seen a revolving house, have you?

Hachi :—Yes, I have. When I was drunk as a piper the other night, my house revolved of itself:

第六課

伊勢の濱に駒ヶ嶽は素より其敵に非ざるも一月場所に伊勢が駒を食つたる例ありしより大いに味を以て見物する中、伊勢シャムに突きかけ駒が押へて泉川に極めるを伊勢イヤダと逃げて廻り込み駒の少しアワタル處を伊勢内がけに持たれ込まんとし大相撲となり伊勢に大いによき處ありて看客扱はと手に汗を握る中、伊勢又イラツて土俵の方に押し來たりしも駒土俵際に踏止まり左の方へツツチャリたれば伊勢つぶれて駒の勝は至當ながら伊勢も能く取りたり。

(萬朝報大相撲取口評)

斯かる邦文を英譯する時には大いに敷衍又は削減を要する事であつて詰り free translation に依りて全體を譯す可きて literal translation では何うも眞情を寫し難いのである。

扱例に依り單語及句の概略を研究して見ると、素より其敵に非ず 云々は素よりを直譯して natural

ly や properly とするのは拙と云ふよりも寧ろ當を得て居ない。本文の素より は naturally や properly の意味に非ずして到底其敵に非ず位の意味である。故に no match for の句を用ひて譯せば到底の意味は此裡に明かに表はされて居るのである。

一月場所に は文字通りに at the January performance ても又は at the last tournament てもよろしい。

食ふ は奇捷を奏するの意味であるから beat に by lucky chance か accidentally を附加す可きである。

味を以て見物する は色々譯があるが當日の呼物と云ふ意味で the match formed the chief attraction of the day とか又は the spectators. (看客) welcomed the match with wild enthusiasm 或は the match was welcomed with a round of cheers 杯もよからう。

シヤニムに突きかける はシヤニムの意を傳へるに furiously 丈けては物足りない。是れは何うも其前に take the offensive (攻勢を取る) の如きを入れて Ise took the offensive and rushed at Koma furiously としたら多少眞景を髣髴させる事が出来やう。

駒が押へて は Koma repelled the attack splendidly 杯でよからう。

極める は try, attempt 等がよからう。

逃げて廻り込み は dodge が通語であらう。

大相撲となり は they came to close quarters (ガツン取り組む) 又は they came to a clinch も同意である。或は全く夫等の語を避けて the contest has become a

thrilling one 等もよい。

伊勢によき所あり は the trick stood Ise in good stead 又は the trick worked well and gained Ise an advantage over his antagonist 等種々の譯し方がある。

手に汗を握る は watch with breathless interest が至當の譯であらうが Every eye was rivetted with attention on their movement も之に亞いでよからう。

イラツテ は hurry, precipitate では甚だ物足りないから Ise being eager to give his opponent a coup de grace (留を刺す) 杯がよい。

土俵際に踏止まり は stand bolt upright at the edge of the ring 杯で十分だ。

左の方へウツチャリ は by suddenly turning aside he threw the opponent out of the ring to his left 又は by an adroit skill of dodging... 等が所謂ウツチャリに相當する事と思ふ。

至當 は The result was as we had expected.

伊勢も能く取りたり は it must be admitted that Ise manœuvred skilfully 又は it must be said in justice to Ise that he wrestled well 等がよいと思ふ。

(作 例)

1. *Isenohama is no match for Komagatake, yet the former having once beaten the latter at the last tournament, the match between the two wrestlers formed the*

第七課

妙な男の命拾ひ

横濱市北方町六百廿五番地人足業外山淺

次郎(五十六)と云へるは酔へば川の中に浮

かしある材木の上へ寝轉びて人に笑はる

人を得意とする妙な男なるが昨日も長島橋

の下手にて此手をやらんとして河中に轉げ

込み半死半生になり居る處を壽町署の木村

石野二巡査が通行人と共に救上げた。

(東京日々新聞雜報)

横濱市……番地 は此儘逆に書けばよいのでそれから又市を譯して Yokohama city 杯とする必要もあるまい。唯 Yokohama でよい。

人足業 は a coolie で澤山。「業」を直譯して a coolie by profession の如くするのは滑稽だ。coolie は又 cooly と綴る事もある。

酔へば は whenever he gets drunk 又は whenever he is fuddled 1 with drink 等色々ある。

川の中に浮かしたる材木 を timbers floating on the river ではないかぬ。float して居る材木の上に臥る時はそ

れと共に流されて了ふ。此場合 moored と云ふ字を用ゐたらよからうと思ふ。

寝轉びて は laying himself (又は lying) at full length の如くにした方がよいと思ふ。

人に笑はれる は to be laughed (or pointed) at by people であるが此場合の「人」は通行人の意味であるから passers-by の方が幾分優るのである。

得意とする を pride himself 杯は拙である。簡単な pleased など云ふ字を用ゐた方がよい。

妙な男 は strange person では拙である。これは常軌を逸した所謂畸人なのだから eccentric person 又は簡単に eccentric (noun) にした方が善い。

昨日も の「も」を yesterday, as usual, とか yesterday also の如く譯出する必要はない。此「も」は其次の「此手を遣らんとて」の中に含めて譯す方がよい。

長島橋の下手 は「下手」云々を確實に譯出せぬても near Nagashima-bashi で充分意が達する。

此手を遣らんとして は可成り難句である。to try his usual trick か或は to indulge in his wonted caprice 杯が當るだらうか。

河中に轉げ込み 此文と前の「此手を遣らんとて」を直ちに連結するは餘り abrupt に過ぎる憂がある。此間に多少の敷衍を要する事と思ふ即ち as he was rather unsteady on his legs, he made a false step in the very act of doing so, and down he fell into the river の如くするがよいと思ふ。

半死半生 は came near drowning 又は came within an ace of drowning だよ。

壽町署の二巡査 は Messrs.—of the Kotobukicho Police Station で充分で two policemen の如く直譯すると却つて文章を拙にする。

通行人と共に は 唯 with some passers-by とするよりも with the help of some passers-by とした方が文章が improve する。

救上げたは rescued (or saved) the man には from drowning の如きを補足した方が善いやうだ。

扱又標題の「妙な男の命拾ひ」は直譯して Narrow Escape of an Eccentric とするか又は Mishap to an Eccentric 位がよからう。

(作 例)

1. Mishap to an Eccentric.

Asajiro Toyama, a coolie, aged 56, who lives at no. 625, Kitagata-cho, Yokohama, is known among his mates as a man of eccentric behaviours. Whenever he gets drunk, he will betake himself to a river-side and lie at full length on the timbers moored there. The more the people come and laugh at him the more pleased he seems to be. About one yesterday afternoon, he came in a full state of intoxication, near Nagashima-bashi and was going to indulge in his wonted caprice. As he was rather

unsteady on his legs, he made a false step and down he fell into the river with a splash. The tide was then high and the man came within an ace of drowning. Fortunately, however, Messrs Kimura and Ishino of the Kotobukicho Police Station happened to pass by the spot, and with the help of some passers-by rescued the unfortunate eccentric from drowning.

2. Mishap to an Eccentric.

Asajiro Toyama, a coolie, 56 years old, living at no 625, Kitagatacho Yokohama, is a man with eccentric habits. Whenever he gets drunk, he goes to a river bank, will lie on the timbers moored there, and seems to be much pleased to have people come and point at him. Yesterday about one p. m., he came, rather groggy on his legs, to the lower reaches of Nagashima-bashi, probably to sleep off the effect of the intoxicating liquor he had taken. In the very act of stepping on his usual seat, he missed his footing and down he fell into the river heels over head. When the poor eccentric came within an ace of being drowned, two constables of the Kotobukicho Police Station happened to pass by the spot and with the help of some passers-by saved the man from drowning.

第八課

講評は參謀總長をして爲さしめたり。今
 次の演習は參加團隊尠からず、且つ臨時召
 集編成のものを以てせり、然るに其成績概
 ね良好にして一般に進歩の狀あり、朕太だ
 是れを嘉す、爾將卒益す奮勵し、世界の進
 運に伴ひ我軍の精銳を増し、以て干城の任
 を盡さんことを期せよ。

本課に於ては長くも 大元帥陛下が先年の大演習終了
 當日に於て參加諸軍隊に下し給へる勅語の英譯を謹みて
 諸君の前に講述し最後に拙き作例を載する事とした。
 講評は參謀總長をして爲さしめたり。を英譯するに
 當りて最初の必要は邦語には略されて居るが英語として
 は最必要なる主格を填充する事である。云ふまでもなく
 「爲さしめたり」の subject は恐多くも 陛下であるに依り
 We を文章の主格としなければならぬ、蓋し一國の元首と
 新聞雑誌の editors は自己を表はすに一人稱の復數を用ふ
 るので前者の場合に於ては we は邦語の「朕」に當り、後者
 の場合には「吾人」「我儕」「吾曹」等に當るのである。尚
 前者の場合に於ける We は Capital Letter を以て始める
 のである。

講評 は criticism 又は comment を普通用ふるやう
 である。兩者共伴ふ名詞は make で make a criticism 又
 は make a comment となる、又之を動詞にすると前者は
 criticize 後者は同形の comment である。
 參謀總長 は the Chief of the General Staff 又は the
 President of the General Staff Office.

として爲さしめたり は have caused... to make
 が一番穩當であらう、caused の外に instructed もよいが
 此他の made は輕いし ordered も面白くない。
 今次の演習は參加團隊尠からず は many divisions
 (師團=團隊) took part (參加した) in the present ma-
 neuvres. 又は the present manoeuvres comprised (含む)
 a considerable number of divisions がよい。

且つ臨時召集編成のものを以てせり は此中の或者
 が臨時召集編成のものであると云ふ意味である故に some
 of them としなければならぬ。それから「臨時召集編成」
 formed for a temporary purpose などでは直譯で拙い、
 これは「豫後備役の兵を臨時召集編成した」の意である故
 に formed from the Reserves が適譯のやうに思はれる。

然るに は but では輕い、nevertheless 位用ゐるがよ
 からう。

其成績概ね良好にして は the results have, on the
 whole, been very satisfactory 又は the results of the oper-
 ations have been generally good.

一般に進歩の狀あり、朕太だ是れを嘉す を There
 are evidences (狀) of remarkable progress and we greatly

approve it と云ふやうに compound sentence にしないで We are very much gratified (=嘉す, approve よりよし) with the evidences of progress shown by you in the manœuvres の如くした方がよいと思ふ。尙「嘉す」を satisfied を以て譯し we are greatly satisfied at the general progress of operations (演習の作戦) の如くするも一法である。

爾將卒益々奮勵し は You, officers and men, are exhorted to endeavour even more strenuously もよいが此前に We trust (朕は望む) の意を挿入して We trust that you, officers and men, will exert greater zeal 杯としてもよい。

世界の進運に伴ひ我軍の精銳を増し は詰り「世界の進運に遅れずに益々勉勵し我軍の精銳を増せよ」との大御心であるから increase the excellence (精銳) of our Army so as to keep pace with the progress of the world とするがよいのである。又前記の「爾將卒」云々と本文を連結さして you should all strive to increase the efficiency (精銳) of the Imperial Army so as not to fall behind the general development of the world の如くしてもよい。

以て干城の任を盡さん事を期せよ は and should discharge the duties (任) of the defenders of the State 杯でよいと思ふ。次に吾人の拙劣なる譯文二例を掲げる。

~~~~~

(作 例)

1. We have now instructed the Chief of the General Staff to comment on the manœuvres. A great number of divisions has taken part in the present manœuvres, some of whom have been formed from the Reserves; nevertheless, you have proved quite successful, and we are very much pleased at the general progress of operations. We trust that you, officers and men, will use greater zeal and strive to increase the efficiency of the Imperial Army, thereby discharging the duties of the defenders of the State.

2. We have now heard the Chief of the General Staff Office make a criticism on the operations. The present manœuvres comprised a considerable number of divisions and some of them were of the Reserves. Nevertheless, the results have been generally good. We are quite satisfied with the remarkable progress shown by you in the manœuvres. You are all exhorted to endeavour more strenuously to enhance the excellence of our Army and to maintain it at the level required by the general progress of the world. In short, we hope you will creditably discharge yourselves of the duties entrusted to you, the defenders of the State.

~~~~~


第九課

税制の整理は國民負擔の均衡を圖るを目的として必ずしも租税の輕減を目的としたるものに非ずと雖も整理の結果地租に於て田畑地租八厘減を始めとし營業税、織物消費税、砂糖消費税其他各種の税目に亘りて税額の減少を來し國民の負擔を輕減すること寡からず。
(桂藏相の演説)

本課講義の材料は桂首相が Minister of Finance の資格で先年名古屋市に開かれたる Banker's Clearing Houses (手形交換所) の大會に於て爲したる演説の一節であります。

税制の整理 は the readjustment (リ・ア・ジ・ュ・ス・ト・メント) of taxation 又は the taxation readjustment と縮めてもよろしい。

國民負擔 も文字通りに the burden of the nation (people) 或は the national burden でよろしいのです。

均衡を圖る は一つの動詞で表はすとすれば balance 又は equalize (=make equal) であるがこれをフ

レ・ズとして effect (=bring about) the equilibrium of 杯とすれば多少文體が重々しくなつてくる。を目的とし は要するに種々雑多な言方を以て表はし得る所である。simple verb の aim を用ひて aim at the equalization of the national burden とするとも aim to equalize the national burden とするともいづれてもよいのである。それから又 with the object (or view) of や in order to 杯の phrases を用ひて the readjustment of taxation was planned (projected) with the view equalizing (in order to equalize) the national burden としてもよいのである。尙又爰に have..... as its object (aim) の構造を採用して the readjustment of taxation had as its chief object the equalization of the national burdens とするもよからう。

類例 (本會は社會矯風を目的とす)
The Society has as its object the amelioration of social evils

又 object なり aim なりの「目的」を表す名詞を主語として the chief end and aim of the taxation readjustment was to effect the equilibrium of the national burden もよいのである。

必ずしも は必ずしも譯出するに及ばぬが若し譯出するとせば例の necessarily でよい。

租税の輕減 は reduction (decrease, mitigation) of taxes でよい。因みに

比較 { tax = 租税
taxation = 税制
tariff = 税率

目的としたるものに非ず は aim at 等を繰返さずとも and not て前文へ連結すればよいのである。

と雖も は still か but て although....yet は何となく好かない。

整理の結果として は as a result of the readjustment.

田畑地租八厘減 は the 0.8 per cent. reduction of taxes on arable (=farming) land が普通な言方である。

を始めとして を文字通りに直譯して beginning with the 0.8 per cent. reduction では甚拙い。此「.....を始めとして」は英譯の際には全く度外に措いてよいのである。

營業税、織物消費税、砂糖消費税其他の税目 は文字通りに英譯して差支ない、即ち the business tax, the textile (テクスチル) consumption tax, the sugar consumption tax and other imposts (=taxes, duties) てよいのだがかくては tax が三度、consumption が二度一文中に現はれて甚しく冗長になるから tax と consumption を省略又は節減して the business, textile, sugar and other taxes ても十分意が通じて簡潔の本旨に副ふのである。

亘りて、これも英譯の際には無論失敬して構はぬ。税額の減少を來し は直譯をすれば the rate of taxes has been decreased (=reduced) であるが之を前文と連絡して the rate of taxes has been decreased in the business, textile, sugar and other taxes では甚だしき重複を來たす故に the rate of taxes 杯は省略して the business, textile,

sugar and other taxes have also been reduced となすか reduction has also been effected in the business, textile, sugar and other imposts て十分である。

國民の負擔を輕減すること寡からず は簡單に the burden of the people has been greatly reduced か the national burden has considerably been mitigated て十分である。扱此文の位置であるが原文では最後になつて居るが英譯して Thus the burden of the people has considerably been mitigated では前文との關係が餘りに離れ過ぎて面白くない。これはよろしく「.....と雖も整理の結果」の後ちに入れて Still, as a result of the readjustment, the burden of the people has been considerably mitigated, as (何故となれば) the land tax has been reduced by 0.8 per cent., while the business, textile, sugar, and other taxes have also been decreased more or less 杯とした方が英文としては確かに優つて居る。爰て讀者の學ぶ可き事は原文の順序は必ずしも英文に於て保留するの必要なしと云ふ事で英文として佳良のものたらしめん爲めには原文の順序は如何様に變更するも差支ないと云ふ事である。

(作 例)

1. The taxation readjustment was projected with the object of equalizing the national burden and not necessarily of decreasing taxes, but as a result of the readjustment, the burden of the people has considerably been mitigated,

the land tax being reduced by 0.8 per cent. and the business, textile, sugar and other taxes being also decreased more or less.

2. The chief end and aim of the readjustment of taxation was the equalization of the national burdens and not necessarily the reduction of taxes. Still, as a result of this readjustment, the burdens of the people have greatly been lessened, so much so that the land tax has been reduced by 8/10 per cent., while the business, textile fabric, sugar and other imposts have also undergone some reduction.

【註】 so much so that 「次の程にも」

3. It was the aim of the taxation readjustment to effect the equilibrium of the national burdens and it did not altogether aim at the mitigation of the taxes. However, a result of the readjustment was that the people have had their burden lessened to a considerable extent, inasmuch as there had been the 8 *rin* reduction of the land tax, while decrease had also been effected in the business, textile, sugar and other taxes.

第拾課

外國人に土地所有權を許す可きや否やの問題は多年の宿題にして、之が爲めには種々の議論もありたる所なるが、今日に於ては格別なる異論もなく、此法案の議會を通過せるは我が國民の實力と自信とが發達せるを示すものなり。

外國人 は foreigners 又は aliens いづれを用ゐてもよろしい。但し foreigners は讀者の大部分が既知の語であらうが alien なる名詞には或は初見參であるかも知れぬ、前述通り foreigner と同意義であるからこれも覚えて居てよからう。すべて英文を書く時には一つ語や句を二度一文中に使用するを厭む故に語彙は成る可く豊富にして置く可きである。尙又 alien は形容詞も同形で alien people と云へば其時の alien は adjective である。alien people は單に aliens と云ふのと殆ど同意義となるのだ。

土地所有權 は the right (or privilege) of land ownership.

許す これが注意して譯す可き動詞である。「許す」は

直譯をすれば allow だが allow the right of land ownership to foreigners では不可である。allow the right とは決して言ひ得ぬのである。これが「外人に土地の所有を許す」と云ふのなら allow foreigners the (ownership) of land と云はれるが「所有權を許す」のは allow the right とは allow the privilege とは云ひ得ぬのである。一體權利は grant (與へる) するもので (allow) (許す) するものでない。「所有權を許す」とは邦語としても聊か奇異である。況してこれを几帳面なる英語に譯する場合に直譯して allow the right とは頗る奇異である。right にしろ privilege にしろ動詞は grant を用ふ可きである。サア斯ういふ所でして英作文を修むる學生の苦心を要す可きは。斯う云ふ所に注意をせんで英譯をするから出来上つた英語が Japanese English だと云ふて外人に笑はれるのである。

可きや否や は易しく云へば whether.....or not である。即ち whether the right of land ownership should be granted to foreigners or not で十分結構は結構であるが偕々一層立入つて考へて見るとこれは此文の subject となつて文章の冒頭に出づ可き文句である。それを whether.....or not の構造では稍文章に貫目の足らぬやうに思はれ又如何にも世話に碎け過ぎるやうに感ぜられる。でこれは whether.....or not に換ふるに advisability or not (=適否) を用ゐた方がよくはないかと思はれる。即ち The question of advisability or not of granting the right of land ownership to foreigners で此文を始めると假定して置いて。偕

多年の宿題 は a long-talked-of problem 又は a long-pending question 或は a long-mooted question 等色々の言方がある。トコロでこれを前文に連結させるのだが The question of advisability or not of granting the right of land ownership to foreigners had been a long mooted question とすると the question had been a long-mooted question となつて甚だ文章として拙である故に此冒頭の question は省いて advisability or not で文を始めるがよい。それからモ一つ此 or not も省略して了ふ方がよい。と云ふ譯は邦語では「適否」とか「可否」とか「安否」とか「成否」とか云ふが英語では or not はあまり使はぬ習慣である。即ち一語のうちに or not の意を含み advisability で「適否」safety で「安否」と譯す場合が甚だ多い。これも英語の癖の一つである。次の例を見られよ。

(例)

- (1) { I wired to inquire the *safety* of the ship.
船の安否を尋ねる爲めに電報かけた。
- (2) { I doubt the *advisability* of your going.
君の行く可否を疑ふ。
- (3) { Do you doubt the *propriety* of my step?
余の手段の適否を疑ふか。
- (4) { She came to learn my *success*.
僕の成否を聞きに來た。

故に本文の冒頭は Advisability of granting the right of land

ownership to foreigners had been a long-mooted problem
てよいと極まつた。

それからあまり諄くなる嫌があるが何故に had
been なる past perfect tense を用ふるかと云ふに外人土地
所有権法案が議會を通過したのは既に過去の事柄である。
其前既に此土地所有権を興ふ可きや否やが多年の宿題
となつて居たと云ふのだから past perfect を用ゐたので
ある。

これが爲めには は「爲めには」に拘泥して for its
sake 杯としてはいけない。「此問題に關して」の意である
から on the subject てよいのである。

種々の議論もありたる所なるが は various opinions
had been expressed て結構。

今日に於ては は at present 又は now てよいのだが
これは道理上後の「議會を通過せる」に係る副詞句で議會
を通過したのは先頃の事であるからイツソ省略してもよ
いのである。

格別なる異論もなく は without any particular op-
position て十分結構であるが particular が稍直譯臭を帯び
た観がないでもないからこれを serious に改めて without
any serious opposition 杯としたら一層文章が improve す
るだらう。

此法案の議會を通過せるは は that the bill should
have passed through the Diet てよいのだが passed を名詞
に直して passage として the passage of this bill through
the Diet とすれば文章が一層簡潔となるのである。

我國民の實力と自信とが發達せるを示すものなり は
show the growth of the real strength and self-confidence of
our people)て差支ないやうなもの、實力 (real strength)の
發達 (growth)は受取られるが自信 (self-confidence)の發達
(growth)は一寸訝しく感ぜられる嚴密に云へば show the
self confidence of our people arising from the growth of the
real strength とでもせなければならぬのである。或は又
此「實力と自信の發達」を打ツて一丸として show that
our countrymen are convinced of the increased national
strength 杯とするも一法である。

(作 例)

1. Advisability of granting the privilege of land owner-
ship to foreigners had been a long-mooted question and
various opinions had been expressed on the subject. The
passage through the Diet of the alien land-ownership bill
without any serious opposition shows the self-confidence of
our people arising from the growth of their real strength.

【註】 作例の一は原文の一字一句に忠實なる直譯體の譯文を示したので
ある。次に逐字譯でない意譯の作例を一二示す事にする。

2. Various opinions had been expressed as to the
advisability of allowing foreigners the possession of land
in our country. Therefore it testifies to the increased
strength and self-confidence of our people that the Diet

should have passed the long-talked-of bill legalizing the alien land ownership with only slightest amendment.

3. The passage through the Diet of the long-talked-of alien land-ownership bill without any particular adverse opinions shows that our people now repose full confidence in their real strength and have cast aside the old prejudice against aliens.

【註】 作例三の and have cast aside the old prejudice against aliens は「外國人に對する古來の偏見を捨たり」の意で原文にはないが意譯上敷衍せるものである。

第十課

今様大岡裁判、京橋區采女町の待合大國家事三柿伊三郎は昨年親戚より一頭の黒犬を貰ひ「クロ」と名付けて我子の如く可愛がつて居ると先頃來黒がフト姿を隠したるより心當りを尋ねたれど一向解らず果は尋ねあぐんで斷念し居たるに先頃同區丸屋町の待合吉川屋の前を通るとフト目に付いた犬は何ぞ計らん黒なるより早速同家へ談判に及ぶと女將吉川お金が之は他より買入れたる

なりと云ふ事て伊三郎は此旨三十間堀分署へ訴出たり、ところが同署の石川警部が双方の申立を聞くと兩方共水掛論なるに當惑したるが爰に一生の智恵を絞り出し犬の「クロ」を双方の中央に置き扱原被兩造一緒に犬の名を呼ばしめたるに「クロ」は伊三郎の方へは目も呉れず尾を振つても金の方へ行きたるにぞ爰に談判はお金の勝となりたるが近頃頗る振るつた珍裁判と云ふ可し。

今様大岡裁判 これは此雜報の標題であるが偕これを何と譯出してよきかと云ふに意譯して A Clever Judgment 又は A Witty Judge もよからうし直譯して An O-Oka Come To Judgment 杯も面白からう。又ズツト意譯して A Japanese Solomon も一寸變つて居てよいと思ふ。

待合大國家事三柿伊三郎 の「事」が多少讀者を迷はせしかも知らぬがこれ待合大國家の主人と云ふ意なのだから Isaburo Mikaki, proprietor of an assignation house called Daikokuya てよいのである。

我子の如く可愛がる は love the dog as if it were his own child ても pet the dog with almost paternal care てもいづれでもよいのである。

フと姿を隠した は suddenly disappear ても was suddenly found missing てもいづれでもよいのであるが此場合 lost といふ字は稍不穩である。

心當りを尋ねたれど は直譯をすれば he searched every place where he thought it likely that the dog went である。又此「心當り」を略して he at once instituted a diligent search 扱としても原文の意義が十分傳はるのである。

一向解らず は but in vain 又は but to no purpose 或は but the effort turned out fruitless 扱である。

尋ねあぐんで斷念し は文字に拘泥して he was tired of the search and gave it up at last 扱とせずとも gave up the search in despair 十分其意が通ずるのである。

前を通る は多數の學生が pass before と得て誤譯するがこの before は全然不用なのである。序に次を比較されたい。

- | | | |
|----|---|----------------------------|
| 比較 | } | pass a house (door) 家の前を通る |
| | | pass by a house 家の傍を通る |
| | | pass through a gate 門を通る |
| | | pass along the street 町を通る |

何ぞ計らん黒なるより は it was none other than Kuro 又は which he found, to his surprise, to be his beloved Kuro 扱てよい。

談判に及ぶ は難關だ。和英字典の示す negotiate には到底此所の意義を表す事は出来ぬ。「談判」とは要するに 犬の引渡しを要求する談判 なのだから claim the delivery

(delivery の代りに surrender 又は recovery を用ふるもよし) of the dog と意譯す可きである。すべて和文を英譯する際に於て困難を感じた時には先づ和文の意義を別の言葉で考直してさて其上意義を採つて英譯す可きで要するに文字によりて英譯す可からず意義に依りて英譯せよと云ふ事は呉々も云つて置きたいのである。

此旨三十間堀分署へ訴出たり に「此旨」とあればとて to that effect とする必要はない。唯 he lodged the complaint at the S—Police Branch 扱てよいのである。

同署の これは全然省略してよい。 of the same office 扱は乳臭紛々たるものである。

申立を聞く の聞くは heard は不可だ。 listened to 扱なければならぬ。

水掛論 は先きに註て興へて置いた arguments without evidence 扱てよいのだが their arguments were without evidences 扱では甚だ拙である。これを neither of their arguments was supported by evidence とすれば文章が活きるのである。作例の the Inspector found that there was no evidence to prove which was the real owner of the dog も意譯てはあるが「水掛論」の意味を傳へて居るのである。

當惑し は annoyed, perplexed, puzzled, at a loss などいろいろある。

一生の智慧を絞り出し を直譯して calling forth wit for once in life 扱などは拙である。これは一生懸命になつて旨い智慧を絞り出したのだから after cudgelling (又

は racking) his brains, he at last hit upon a good idea などがよからう。

中央 を in the centre は不可である。in the centre や in the heart 杯は in the middle と同じやうに圓いものゝ中を意味するので「東京の中央」と云ふ時には in the centre of Tokyo でもよからうが「二人の中央」には centre はいかん。作例の right between 又は just (half way) between がよからう。

目も呉れず は giving no attention 又は without giving any notice だよ。

尾を振って は wagging its tail だが作例には jump のうちにイッソしたさまを見せたつもりで此 wagging its tail はワザと省略した。

近頃振った珍裁判 は This was a very comical judgment in recent years 杯と直譯するのは誤りであると云はざるを得ないのである。意譯をして The case was a unique one and reminds us of the famous O-oka's judgment in the era of Tokugawa 杯はよいが要するに英文流に行けばこの結文句は文の冒頭に出して A very interesting complaint was lodged at the Sanjukkenbori Police Station, Kyobashi, the other day とでもした方がよいと思ふ。依り作例には其如く原文の結尾文句を冒頭に持來った次第である。

(作 例)

AN O-OKA COME TO JUDGMENT.

Isaburo Mikaki, proprietor of an assignation house called Daikokuya at Unemecho, Kyobashi, received a black dog from one of his relatives last year. He named it "Kuro" and since then had learnt to love the dog as though it were his own child. Great was his alarm, therefore, when, some weeks ago, the pet suddenly disappeared from his house. He at once instituted a diligent search for the missing dog, but failed to locate it, and at last gave up the search in deep despair. Only a few days ago, however, when he was passing Maruyacho, in the same ward, he observed a black dog playing in front of another assignation house called Yoshikawaya, which Isaburo recognized to be his beloved "Kuro." He at once went into the house and had an interview with O-kin Yoshikawa, proprietress of the house, in which Isaburo asked the latter for the surrender of the animal. O-kin, however, also claimed the dog as her own property, stating that she had bought it from a certain acquaintance of hers. As a result the complaint was lodged at the Sanjukkenbori Police Branch. Inspector Ishikawa, listening to the statement of either side, was greatly annoyed, for he found that there was no evidence to prove which was the real owner of the dog. At last a capital idea struck him. Placing the little dog

right between the disputants, the Judge ordered them to call the dog's name at the same time. This done, and the animal, without casting even a glance to the plaintiff, jumped on to the woman's lap, and thus the decision was given in favor of the defendant.

第十二課

今回米國政府は滿洲鐵道中立に關する提議を致しましたが、本件は帝國の緊切なる利益に關する事項なるのみならず、帝國と最も親交ある友邦の提議に係りますから政府に於きましては之に對し特に慎重なる考慮を加へた次第でございます。帝國の滿洲に於ける政策は門戶開放、機會均等の主義を嚴守するにある事は固よりでございます。然るに米國提議の實行は「ポーツマス」條約と北京條約に依りて確立しましたる滿洲の事態に根本的變動を與ふるものでございまして其結果甚だ重大なるのみならず、

南滿洲鐵道の附近に於きましては引續き同鐵道の我が領有に屬すべき事を期しまして其信念の下に諸般の事業を經營するものが甚だ多くございますから、今に及んで此鐵道を放棄するが如きは、我が帝國の責任上到底之を許すことが出來ない所でございます。依つて帝國政府に於きましては、本月廿一日を以て遺憾ながら米國政府の提議に同意する能はざる趣を同國政府に回答するの已むを得ざるに至つた次第でございます。帝國政府は米國が此問題に關しましては我が意のある所を諒とすべく、又列國も我が態度の公正なるを認識することであらうと信じて居ります。

(小村外相の演説)

今回 は「近頃、先達」の意で lately, of late を用ふ可きて今回、今般杯をよく this time 杯と直譯する學生が寡くないやうですがこれは注意して避く可きてある。

米國政府 は the United States (American) Government 又は the Washington Government (華盛頓政府) 或は單に America, the United States てもよろしい。

満洲鐵道中立に關する は regarding (relating to) the neutralization of the railways in Manchuria であるが neutralization を動詞にして to neutralize the railways in Manchuria としてよい。又「満洲鐵道」を the Manchurian railways としても差支ない。

提議を致しましたが は動詞は present perfect を用ゐなければなりません。其わけは lately 又は of late なる副詞。副詞句があるからです。扱「提議」は proposal であるが「……を致しました」は如何に英譯す可きやと云ふに早速學生の頭に浮ぶものは made である。made a proposal regarding the neutralization of the railways in Manchuria も悪くはなからうが made よりも此場合 proposal を object に取る動詞としては put (又は bring) forward (又は forth) の方が多少よいやうに思はれる。又 proposal を動詞にして has proposed a scheme (計畫) to neutralize the Manchurian railways としてもよいのである。

本件は帝國の緊切なる利益に關する事項 は this is a matter (事項) which vitally concerns the interests of the Empire が一番平たい英譯であらうと思はれる。併し又翻つて考て見ると this is a matter which はイカニ「本件は……事項」の直譯のやうに見え且つ proposal を a matter と云ふのは異様にも思はれるからイツ proposal を重用して the proposal vitally concerns the interests of the Empire とするか或は proposal の代用語として scheme 或は project (二語共「計畫」の意味である)を用ゐ

て the project (scheme) vitally concerns the interests of the Empire の如くするのもよからう。扱又「緊切なる利益に關する」は concerns the important (or grave or vital) interests と「緊切なる」を其儘英語の形容詞に譯出してもよし又曩に與へた例文の如く vitally concerns the interests……のやうに副詞に譯出するもよからう。「關する」は concerns の外に例の relate 又は connect は此場合不可であるが involve in (含む, 關す) と云ふ動詞句を用ゐる the scheme involves the grave interests of our country 或は important interests of our Empire are involved in the project も亦一法である。此外動詞の affect を使用して the scheme is likely to affect the vital interests of the Empire としてもよい。困みに interests と云ふ字は「利害關係」の意に用ゐらるゝ時には常に複數形を取るもので本文の「利益に關する」云々は云ふまでもなく「利害關係に關する」の意で爰で profit や advantage を用ふる事の出來ないのは明白である。

帝國と最も親交ある友邦の提議に係りまするから は as the proposal came from Japan's most friendly country が普通の譯法である。尙此外に considering that (=as) the proposal came from a Power most friendly disposed toward Japan 或は in view of the fact that (=as) the proposal emanated (來る, 出る) from a country with which Japan had stood in the most intimate terms などもよからう。

政府に於きましては之に對し慎重なる考慮を加へた

次第でございます は簡単に the Government has given it the most careful consideration, てよい. 今少し鹿爪らしく書かうと思ふたら the Imperial Government has submitted the proposal to careful consideration もよい. 但し submit.....to は「に附する」の意で give to を用ふると次の如く語順の比較をして貰ひたい.

比較 { give the most careful consideration to the proposal.
submit the proposal to the most careful consideration.

帝國の滿洲に於ける政策は門戸開放、機會均等の主義を嚴守するにある事は固よりでございます は Japan's policy in Manchuria is the strict observance of the principles of open door and equal opportunity てよい「事は固よりでございます」は文章前後の關係から考へて it goes without saying that 却と譯出せない方が却つてよいやうに思はれるのである.

然るに米國提議の實行は「ポーツマス」條約と北京條約に依りて確定したる滿洲の事態に根本的變動を與ふるものでございまして は直譯して but the realization of the American proposal would bring about a radical change in the present state of things in Manchuria settled by the Portsmouth and Peking Treaties で十分である. 尙又「根本的變動を與へる」を bring about a radical change とせず意譯して completely upset the existing condition in Manchuria 或は totally destroy (又は overthrow) the

present state of things in Manchuria もよからう. それから前に遡つて「ポーツマス及北京條約によりて確定せる」を settled by the P—and P—Treaties として置いたが「確定したる」は settled の外に最も普通な語は established であると云ふ事をも記憶して貰ひたい.

其結果甚だ重大なり は and the consequences would be very serious てもよいにはよいが多少幼稚な言方たるを免れぬ. ensue (續いて起る) と云ふ字を用ゐて and very serious consequences would ensue とか and would be attended with very serious results とても云へば文章が多少大人らしく成るので此邊も英學生の一顧を要す可き箇所なのである. 扱又此處に would を用ゐて the realization of the proposal would totally upset the present condition in Manchuria and very serious results would ensue の如く此過去動詞を用ゐたわけは提議を實行するやうになれば.....變動を生ずるだらう. 又其結果甚だ重大ならむ」と云ふ所謂條件付の想像であるから will を用ゐないで would を用ゐたわけである.

南滿洲鐵道の附近に於きましては は直譯すれば in the vicinity (neighborhood) of the South Manchurian Railway であるが此書方は拙と云ふ程ではないがあまり感心も出来ない. 今少し進んだ言方とは考へて見ると「南滿鐵道の沿線地域」と云ふ意味で in the region along the S. M. Railway 又は in the region affected by the S. M. Railway もよからうし又「鐵道地帯」の事を railway zone と云ふから in the zone of the S. M. Railway もよからう.

引續き同鐵道の我領有に屬すべき事を期して其信念の下に は邦語としても稍 redundant な言廻振りである。英譯の際には「期して」と「其信念の下に」とを打つて一丸として in the belief that とか being confident that とか under the conviction that とかす可きて in the belief *expecting* that の如く「期して」の譯語たる expect はどう用ゐても——例へば in the belief arising from the expectation that の如く書いても尙且つ redundant たるを免れぬ。和文に「期して」とあれば何となくそれを譯出せぬと氣が濟まぬやうに思はれると云ふような例は此場合而已でなく我が英學生の通弊として屢々認められる所のもので著者の如きは全力を盡して此直譯病の學生を治癒せん事を希望して居る一人である。閑話休題、「引續き同鐵道の我領有に屬すべき事」は其儘譯して that the railway will remain in the possession of our Government 又は that the Japanese Government will long retain the right of possessing the railway 扱て十分である。

諸般の事業を經營するもの甚だ多くございますから は平たく譯せば as there are many persons who are carrying on various enterprise である。併しなる程邦語の「多くございますから」は「多数の人々がある」と云ふ意味に相違ないが英語として必ず many persons を用ゐなければならぬと云ふわけはない。寧ろ「事業」即ち enterprises か undertakings を主格として as many enterprises are being carried on とか as numerous undertakings are being

planned の方が英文として稍優つて居るやうに感ぜられるのである。

今に至つて之を放棄するは我が帝國の責任上到底許す事が出来ない所で御座います に於ては「帝國の責任上云々」が寡からず讀者を迷はせる事であらうと信ずる。これは英語特有の impersonal subject を用ゐて。即ち responsibility と云ふ語を主辭にして the responsibility of the Imperial Government does not allow it to abandon the railway at the present time とするが上乘であらう。それから邦語では漫然「帝國の責任上」と云つて居るが「責任」とは果して何人何物に對する責任であるかと考へて見るに即ち前出の「滿鐵が永久に帝國の領有たる事を思ふて事業を經營する人々」に對する責任であるのであるから英文としてこれを補充し responsibility of the Imperial Government for these persons does not allow 云々とするか the Imperial Government, inspired by a sense of responsibility for these enterprises (此場合に於ても enterprises ても undertakings ても persons てもいづれでもよい) とすれば十分 intelligible になるのである。「放棄することは…… 到底許すことが出来ぬ」は必ずしも allow と云ふ字を用ゐなくても can not afford (忍びない) といふ句を用ゐて the Government can not afford to abandon the railway in question so suddenly や Japan can not consent to abandoning the railway at the present moment 扱もよからう。

遺憾ながら米國政府の提議に同意する能はざる趣を

同國政府に回答すの已むを得ざるに至つた は英譯するに容易なる一節である。即ち *With regret* (遺憾ながら) *Japan was compelled* (己むを得ざるに立至つた) *to send a reply to the U. S. Government to the effect that* (趣きを) *she could not agree to the proposal* てよいのである。扱又「遺憾ながら」は *with regret* の外に *reluctantly, with reluctance* 扱がよい。

我が意のある所を諒とす可く は難關である。試みに最良の稱ある某和英字典を繰つて見ると「諒とする」といふ項がない。「意」には *will* や *intention* 扱いふ譯が出て居る。マダマダ我國の和英字引なんといふものは學者の *need* を充たす事は出来ぬものだナアと喟嘆久しうした次第である。借「諒」は「諒察」の「諒」で英語なら差詰め *sympathize* の意味だがさればとて *sympathize with our intention* ては西洋人には一日本人にも一解り兼る。「意」扱は全然度外に措いて *sympathize with Japan* ならマダ解るが併し *common sense* から考へて提議を拒絶した國其物から *sympathy* の來可き道理がない。若し *sympathize* するとすれば日本の滿洲に於ける地位に對する *sympathy* て日本其物に對する *sympathy* でない。故に *sympathize with our position* (日本の立場に同情する) と云へば意が通ずる。畢竟するに「意」は *intention* や *will* てなく却つて方角違ひの *position* 扱といふ字で表はされるといふ事を考へて貰いたいのである。尙「諒とする」は *sympathize with* の外に *appreciate* 又は *understand*

を用ゐ *appreciate our position* 或は *understand the position of this country* 扱といふても原意が表はされるであらう。

我が態度の公正なる事を認識す は *recognize our fair attitude* ては文意が迫るやうな氣がするといふなら *recognize that our attitude with regard to this question was fair and just* とするか *recognize the fairness (justice) of Japan's attitude in the matter* 又は *admit the rightfulness of our attitude in connection with the incident* 扱もよからう。

(作 例)

1. As to the proposal of the U. S. Government relating to the neutralization of the railways in Manchuria, our Government has given it the most careful consideration in view of the fact that the suggestion vitally concerns the welfare of our country and that it came from a most friendly Power. Needless to say, our avowed policy in Manchuria is the strict observance of the principles of open door and equal opportunity, but the realization of the American proposal would radically change the present state of things in Manchuria, which was established by the Portsmouth and Peking Treaties and the consequences would be very serious. Now, in the region affected by the South

同國政府に回答すの已むを得ざるに至つた は英譯するに容易なる一節である。即ち *With regret* (遺憾ながら) Japan was *compelled* (已むを得ざるに立至つた) to send a reply to the U. S. Government *to the effect that* (趣きを) she could not agree to the proposal てよいのである。扱又「遺憾ながら」は *with regret* の外に *reluctantly, with reluctance* 扱がよい。

我が意のある所を諒とす可く は難關である。試みに最良の稱ある某和英字典を繰つて見ると「諒とする」といふ項がない。「意」には *will* や *intention* 扱いふ譯が出て居る。マダマダ我國の和英字引なんといふものは學者の *need* を充たす事は出来ぬものだナアと喟嘆久しうした次第である。借「諒」は「諒察」の「諒」で英語なら差詰め *sympathize* の意味だがさればとて *sympathize with our intention* では西洋人には一日本人にも一解り兼る。「意」扱は全然度外に措いて *sympathize with Japan* ならマダ解るが併し *common sense* から考へて提議を拒絶した國其物から *sympathy* の來可き道理がない。若し *sympathize* するとすれば日本の滿洲に於ける地位に對する *sympathy* で日本其物に對する *sympathy* でない。故に *sympathize with our position* (日本の立場に同情する) と云へば意が通ずる。畢竟するに「意」は *intention* や *will* でなく却つて方角違ひの *position* 扱といふ字で表はされるといふ事を考へて貰いたいのである。尙「諒とする」は *sympathize with* の外に *appreciate* 又は *understand*

を用ゐ *appreciate our position* 或は *understand the position of this country* 扱といふても原意が表はされるであらう。

我が態度の公正なる事を認識す は *recognize our fair attitude* では文意が迫るやうな氣がするといふなら *recognize that our attitude with regard to this question was fair and just* とするか *recognize the fairness (justice,) of Japan's attitude in the matter* 又は *admit the rightfulness of our attitude in connection with the incident* 扱もよからう。

(作 例)

1. As to the proposal of the U. S. Government relating to the neutralization of the railways in Manchuria, our Government has given it the most careful consideration in view of the fact that the suggestion vitally concerns the welfare of our country and that it came from a most friendly Power. Needless to say, our avowed policy in Manchuria is the strict observance of the principles of open door and equal opportunity, but the realization of the American proposal would radically change the present state of things in Manchuria, which was established by the Portsmouth and Peking Treaties and the consequences would be very serious. Now, in the region affected by the South

Manchurian Railway there have sprung up of late numerous undertakings which are now being carried on under the conviction that the railway in question will long remain in the possession of Japan, and the responsibility of our Government for these enterprises forbids us to consent to abandoning the said railway at the present moment. With great regret, therefore, the Imperial Government was compelled to reply to the Washington Government on January 26th that it could not agree to the proposal. I trust that the American Government will sympathize with our position and that other Powers will recognize the fairness of our attitude in this question.

2. The American Government has lately brought forward a proposal for the neutralization of the railways in Manchuria. As the project involves the vital interests of our country and emanated from a country most friendly disposed to Japan, our Government has submitted the question to the most careful consideration. Well, Japan's policy in Manchuria is the strict adherence to the principles of open door and equal opportunity, but the neutralization proposal, in case it should be put in practice, would totally upset the existing condition in Manchuria, which was settled by the treaties of Portsmouth and Peking, and very grave consequences would ensue. Moreover, a great many people are carrying on various enterprises in the vicinity of the railway in question under the

conviction that it will remain long in our possession. The Imperial Government, from the sense of responsibility for these persons, can not afford to abandon the railway at the present time. Such as it was, our Government reluctantly sent a reply of refusal on the 26th inst. I trust that the American Government will appreciate our position and that other Powers will recognize the rightfulness of our attitude.

3. The American Government has lately proposed the scheme of neutralizing the railways in Manchuria. Considering that the proposal had not only an important bearing on the interests of Japan but came from a country with which our country had been on terms of close intimacy, our Government gave a most careful examination to it. While the policy of our country in Manchuria is to stick scrupulously to the principles of open door and equal opportunity, it must be remembered that the realization of this project would bring about a radical change in the present condition of Manchuria established by the Portsmouth and Peking Treaties, and would be attended with very serious consequences. Besides, in the belief that the South Manchurian Railway will continually be possessed by Japan, numerous enterprises have been started in its zone, and with a due sense of responsibility for them, the Imperial Government can not agree to abandon the railway. With reluctance we replied to America on January

26th that we were unable to accept her proposal. We believe that the United States will understand our position and that other Powers will recognize the justice of our attitude with regard to this question.

明治四十三年九月廿三日印刷
明治四十三年九月廿六日發行

和文英譯講話

不許複製

檢
印

著 者 今 井 信 之

發 行 者 國 廣 知 二
東京市本郷區森川町壹番地

印 刷 者 飯 田 三 千 太 郎
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所 啓 露 秀 英 舍 第 一 工 場
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

發 行 所 東 西 社

東京市本郷區森川町壹番地

— [定 價 金 四 拾 錢] —

内藤明延編

英文構成法

全一册 五版

上製 定價三十錢
並製 定價二十錢
郵税二錢

▲中學世界評 構成法、註解、彼我語句の比較等の項目に別ら、彼我言語の相違、思想の相違、思想發表の相違等より幾多の苦心を重ねつゝある初學者の爲めに、大なる便宜を興へたるは此小冊子あり。常に此類の書物を讀みて、要所々々に注意を拂ふならば、困難なる和文英譯の課題にあたる際、利益する點決して少なからざるべし。

▲文庫評 『風邪をひく』といふことを "To draw wind" と譯したら誰でもすぐ可笑しな英語だといつて笑ふに違ひないが、これに似た間違をやることは必ずしも珍しくない、よし又反譯に確はないとしても、もつとよい言ひあらはし方がありさうなものだとの疑問は必ず伴ふものである。本書の著者はさうした第一の目的は完全なるエキस्पレッション、言ひ換へれば英語らしい英語の書き方を教ふる爲である、政事談は彼の御得意すかと、寄送文に就いては本社を責に任せずとか、小六ヶしい和文英譯の例題五百を掲げて、別に其の英譯を示してある。英譯には熟語の註釋や用語の説明がそへてあるから、英文和譯の練習にもなる。附録語句の比較中には He is nothing for drawing a long bow (法螺を吹く)、Every man has his hobby-horse (お株、お箱、十八番) などのような面白い例が二百もある、著者の骨折も察せらるゝだけに、有益な、便利の良い本であることだけは紹介子が裏書する。

發行所

東京市本郷區森川町壹番地

東西社

海軍教授 豊島定氏新著

學生旅行家 英語必携

クロース製美本 定價金八拾錢
總頁數四百三十餘 郵税金六錢

會話書として最新にして最も完全なるもの、慣用句集として材料最も豊富なるもの、一切の陸海軍の用語句を網羅したるもの、材料悉く興味あり、一般の同種の書の如く乾燥無味なるものにあらず、すべて英和對譯なれば何人も了解し獨學自修するを得。

『萬朝報』の評 學生旅行及び陸海軍人用として著はされたる四百餘頁の袖珍本にして收むる所の項目百三十餘あり、坊間行はるゝ所の英和會話書と種々の點に於て選を異にするを見る、中にも西洋風俗を説明せる、Take, catch, come, do 等の日用最も多き語句の用法を示せる、又材料の興味多き等の點に於て甚だ價值あり、殊に著者は海軍教授なれば陸海軍用語に富みて且つ正確なるは陸海軍人並に陸海軍諸學校受験者にとり甚だ便利なるべし 近來多數に現はるる英語書類中の自府といふべし。

『大阪毎日新聞』の評 本書が世間普通の英語會話書に比し特色として見るべき所は西洋人の風俗習慣等に就き十分なる注意を拂ひ實際に適切な題目を選び日用肝要の語句を網羅し最も記憶し易く了解し易き方法にて慣用語の用法を教へ其對語の如きいづれも滑稽の分子をそへて面白く可笑しく讀んで飽かず 其材料はいづれもアツプ、ツ、アートなる諸點にあるべし殊に其内外國軍艦訪問、乗捕船、偵察等の會話の實際的にして又軍事に關する用語集の精密且正確なるは流石は年久しく海軍教授に在る著者獨得の無量なりといふべく其他有益なる手紙の書式、演說集等ありすべての點にあつて趣味と實益とを兼ね備へ寸珍にして携帶に便なるは實に必携の名に背かずといふべし。

發行所

東京市本郷區森川町壹番地

東西社

● 近世英文研究叢書 ●

手塚雄先生註譯 (原文附)
第一編 (再版)

ドイル 著書
死刑か無罪か

定價卅五錢 郵稅四錢

原著者は現代英文壇の花役者ドイル氏、原文は洛陽の紙價を暴騰せしめた
るかの探偵譚、筆々躍如、句々鳴動す、眞に是れ奇想天外より落つるもの、
實父殺しの嫌疑を蒙りて、獄屋に繋がれたる一可憐兒が末路「死刑か無罪
か」是れ素人探偵シヤイロツクホームズの神眼鬼察によりて釋然解決せら
れ、一點の曇なきに至りの譯文流麗幽雅にして而かも原文に忠に註解懇切
周到、初學者もよく原文咀嚼の用に適す、娛樂を以て英語學の進歩に資せん
と欲する滿天下の青年は來りて本書を讀め

東區市川本町壹 東西社 振替口座 (壹八四參壹)

内藤明延著

新英文練習書

參版

定價六十錢 郵稅六錢

自ら教へ自ら學ばんと欲する英學生は
本書を求む可し。
短時期に多數の英語を學ばんと欲する
者は本書を求む可し。
一部の書籍にて多數の單語、熟語、英文、
アソセント、發音、文字の異同等——各
種の方面に渡れる、實用的英語を眞面
目、まことに本氣に——眞に實力を養はむ
と欲する健氣なる學生は本書を求む可
し。
英和、和英、熟語等の各辭書を運用、活用
せむと欲する者は本書を求む可し。
本書は中學二三年級以上、高等學校生、
其他業勢の傍ら英語を學ぶ爲學習者に一
日も缺く可らざる良書なり。

批評

全然新工夫の下に編纂せらる。
(中學世界)
會話と作文とを獨學自習するを得
る一の完全なる練習書(新公論)
中學程度の學生には適切なる參考
書(大坂時事新報)
初學者によりては至極便利の良書
たり(英文新誌)
獨學にて英作文を習ふには最も適
當す(中外英字學新聞)
學習者自身工夫を運らして研磨せ
しむる方法を採り、既に修得せ
る力を應用し優に一萬以上の英
文を作ることを得せしむ、中學
生及び諸官立學校入學受験諸氏
の爲に極めて有益なる參考書
(大坂毎日新聞)

發行所

東京市本郷區森川町壹番地

東西社

▲英國 ロ、ステイヴンソン原著
▲日本 手塚 雄先生譯註 (原文付)

●近世英文研究叢書 第二編

好評

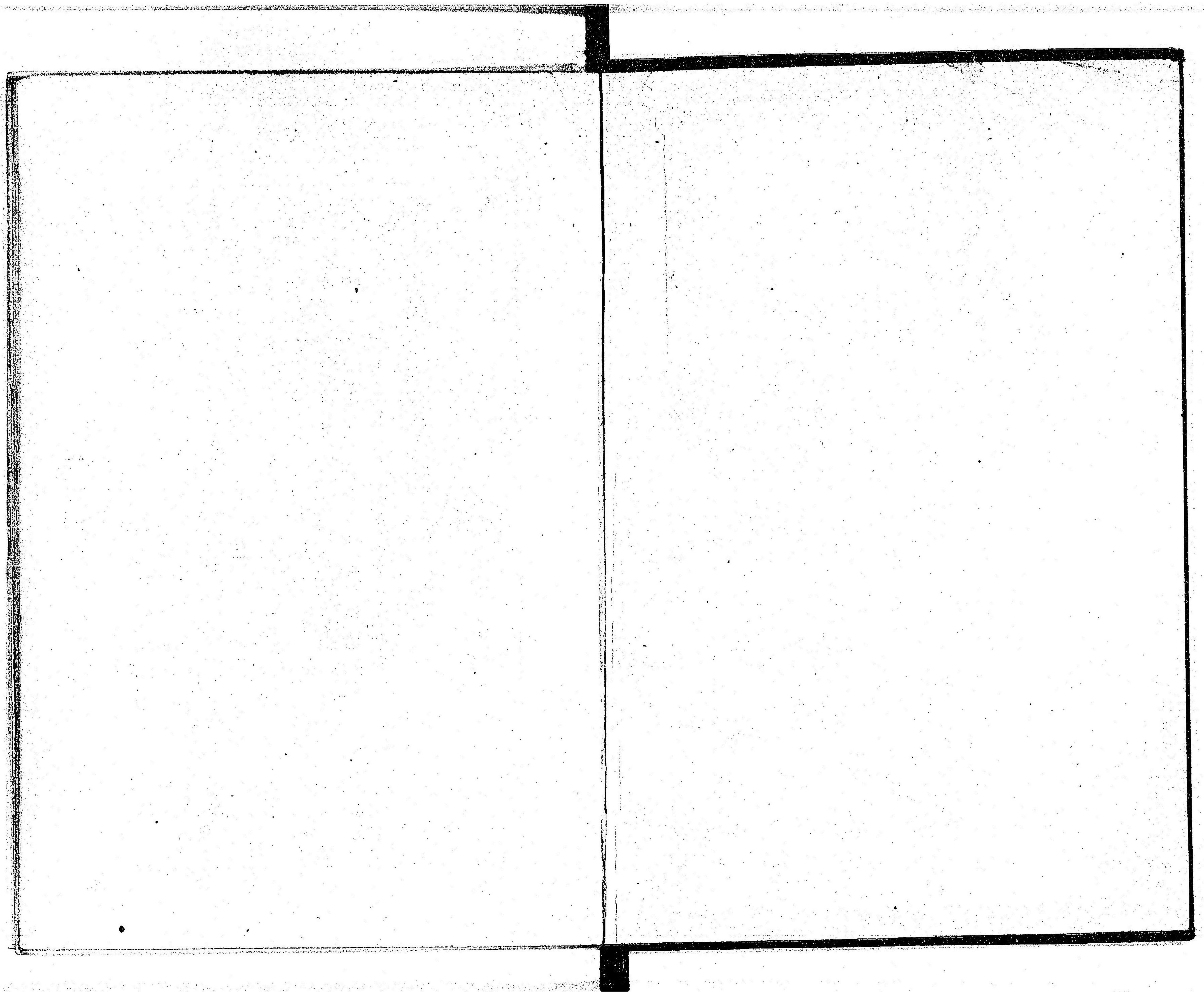
THE BOTTLE IMP.

罇中の悪魔

定價卅五錢
郵稅四錢

嗚呼、是れ、英文小説に於けるロマン派の始祖、ロバート、ステイヴンソン氏の快著なり、罇中の一小妖魔、縦横にその怪力を弄して幾多の男女を愕かし、泣かしめ、笑はしむ、忽にして雷霆霹靂、忽にして光風霽月、その文や瀟灑、高雅その想や飄逸機慧、ステイヴンソン氏天稟の文華は本書に於て百花爛熳たるが如し、譯文は原著の心髓を寫して適確精緻、註解は原文の難句、慣用句を詳説して餘す處なし。

東區 京森 市川 本町 郷登 東 西 社 振替 口八 座登



181

195

181
195

204927-000-8

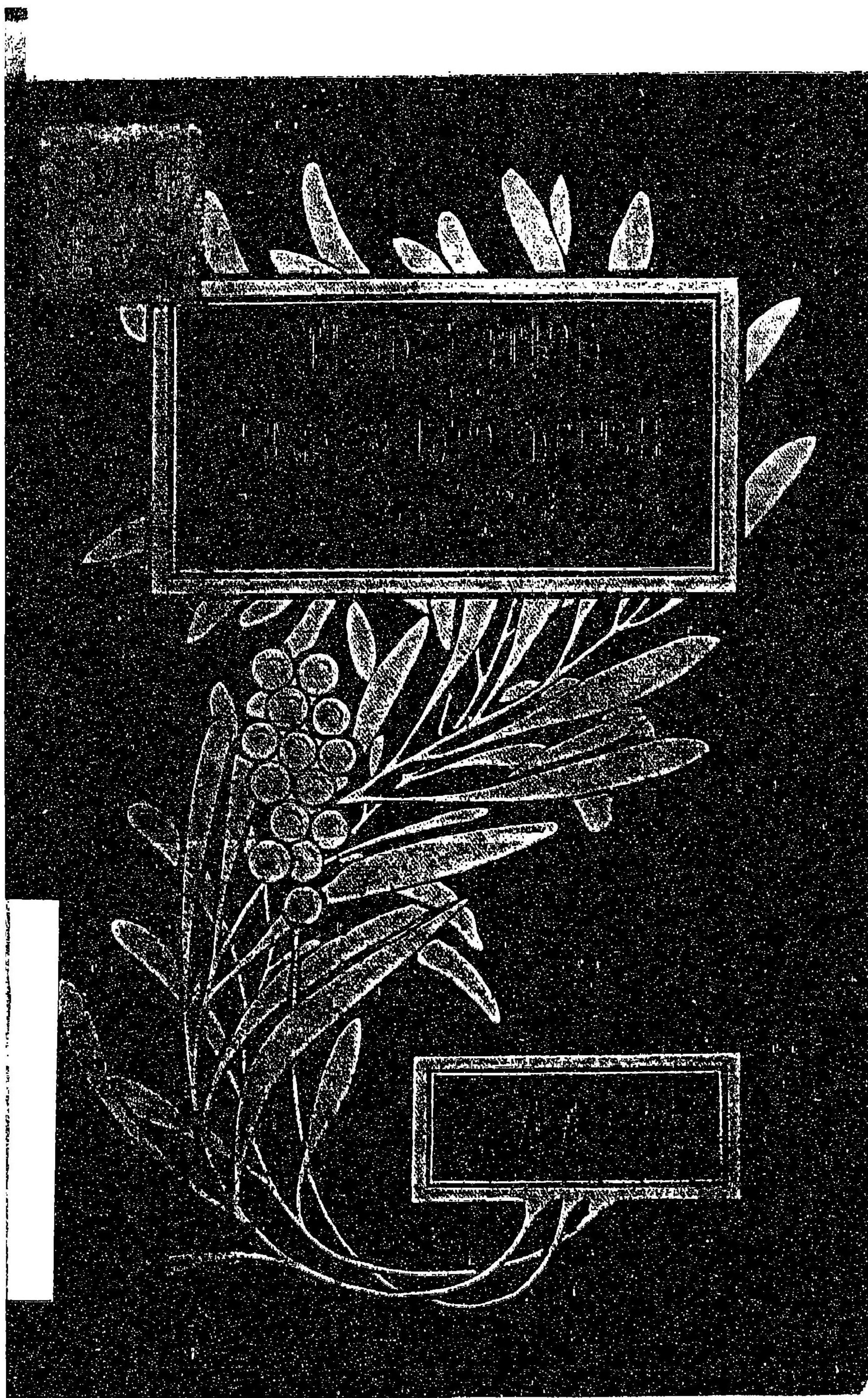
181-195 (洋)

中等和文英訳講話

今井 信之 / 著

M43

EDU-0207



181
195

TRANSLATION
OF
JAPANESE INTO ENGLISH
和英辞書



和英辞書

181
195